

学校だより

Vol. **103**

2017.11



Contents

- 02 校長 入学式式辞
- 04 三主事・専攻科長あいさつ
- 05 各科・各コースの近況
- 09 インターンシップ報告
- 14 学生の海外での活躍
廃止措置研究・人材育成推進室の取組

- 15 体験入学を終えて
- 16 学生の活躍
- 20 クラブ活動紹介
- 22 TOPICS
- 24 新任教職員紹介
- 26 ミニ研究発表会
- 27 校内体育大会



福島工業高等専門学校

入学式

第五十六回入学式 及び
平成二十九年編入学 並びに
第十四回専攻科入学式式辞

福島工業高等専門学校長 中 村 隆 行

新入学生205名、留学生3名を含む編入学生4名、専攻科生29名の皆様の福島高専への御入学をお慶び申し上げます。誠にありがとうございます。

また、御列席の保護者の皆様、お子様の御入学を心からお祝い申し上げます。

寒かった冬が過ぎ、春の暖かい日差しや風を感じる季節になりました。本校、構内の桜の木も、春を待ちかねるように開花し始めています。その中で、本日、多数の新入学生諸君を福島高専にお迎えすることを、教職員、在校生一同、大変喜ばしく思っています。

皆さんが入学した福島高専は、昭和三十七年、国立工業高等専門学校の第一期校として、他の十一の高専と共に創立されました。本日、入学した皆さんは本校への第56回目の入学生となります。この間、本校から、およそ七千九百名の創造性と実践性を併せ持つ卒業生・修了生が巣立ち、様々な産業分野で活躍しています。本日、入学した諸君も、地域の震災からの復興と新しい日本や福島の創生のために、先輩たちに負けずに活躍が出来るよう、本校でしっかりと勉学を積み重ねるとともに、人間力を育成してください。

福島高専では、皆さんが勉強するにあたり、教育理念を定めています。

本校の教育理念の第一は、「広く豊かな教養と人間力の育成」です。本日、入学した皆さんの多くは、将来、我が国の様々な分野で活躍することとなりますが、我が国や地域の発展にどのように役立つかを考えるためには、最初に、幅広い教養と倫理観を身につけることが大切です。さらに、人生における様々な困難に打ち勝つ人間力を育成することが重要です。これが、本校の教育理念の第一です。

教育理念の第二は、「しっかりした基礎力に基づく創造性と実践性の育成」です。卒業後、幅広い分野で活躍できる創造的、実践的な人間となるためには、基礎知識に裏打ちされた柔軟な発想や企画力を保有する人材となる必要があります。現場、現物、現実を踏ま

えて、総合的な判断の下に、複合的に絡み合う課題の解決や、社会のニーズに応える能力を育成することが肝要です。皆さんには、創造性と実践性を兼ね備え、新たな産業を起こしうる「イノベーション人材」に育ってほしいと思っています。これが、教育理念の第二です。

教育理念の第三は、「国際性とコミュニケーション能力の育成」です。グローバル化に伴う国際競争の激化に伴い、我が国を取り巻く状況は激変してきています。また、世界における我が国の状況や立場も、新興諸国の台頭により衰退の一途をたどっているとの指摘もあります。このような背景を踏まえ、皆さんには英語力を向上させることは言うまでもなく、英語で自分の意見を言い、異なった環境に住む相手の考え方を理解した上で、その相手とディベートも出来る能力を育成してほしいと思います。今後、皆さんが、世界で活躍するためには、この素質を育成することが重要です。これが、教育理念の第三です。

さて、これからの五年間、皆さんは次の四つの点を念頭において勉強してください。

まず、第一に、学校で定められた規則・規律を守り、皆が学校で快適に生活出来るように努力してください。

第二に、授業で教えてもらうのではなく、自ら疑問を持ち、自ら調べ、わからないところを授業で質問して確認する姿勢を保ってください。皆さんは、目的を持って、この福島高専に入学してきたはずで、社会に出て専門分野で活躍したい、または、大学や大学院に進学して、さらに専門分野を磨きあげたいなどの目的を持っているはずで、その目的に向かって、自ら学習する姿勢を保ってください。皆さんは、中学校では、受動的に授業に出てさえいれば、その授業について行けたかと思います。しかし、高専では、自宅に戻ってから予習や復習を行わない限り、勉強についていくことは困難です。勉学の動機を失わずに、目標を決めて能動的に勉強してください。



第三に、課外活動を楽しんでください。文化部やスポーツ部に所属し、集団や組織での活動能力やコミュニケーション能力を身につけてください。

第四に、何でも語り合える友人を作ってください。高専在学中の友人やクラスメート、クラブ活動の仲間、一生の友人になりますし、これらの友人によって皆さんの人間力も育まれます。

本日入学した皆さんのために、福島高専は、卒業後の様々な進路を提供しています。五年間の課程を終えて、準学士の称号をもって就職することも出来ますし、本校の専攻科へ進み、大学卒と同じ学士の学位を得ることも出来ます。また、国立大学等の三年生への編入学への道もあります。今から、保護者と相談して自分が進む道を見据えながら、日々、健康に気を付けて、夢と希望を持って勉学に励んでください。

次に、専攻科への入学生諸君。諸君は、本科五年間で修得したことを基礎に、さらに高度な基礎科目と専門科目を学ぶことになります。専攻科二年の課程を終え、学位審査に合格すると、大学改革支援・学位授与機構から大学卒業と同じ学士の学位を得ることが可能です。

さて、東日本大震災から六年が過ぎました。いわき市を含む福島県浜通りは、現在、福島・国際研究産業都市構想、いわゆる「イノベーション・コースト」構想に基づき、世界が注目する震災からの復興を目指しています。その中では、「廃炉へのチャレンジ」として、福島第一原子力発電所の廃炉を加速するための国際的な廃炉研究拠点の整備や、ロボットについての研究・実証拠点の整備が、また「新しい産業基盤の構築」として、スマート・エコパークの整備、エネルギー関連産業の集積、農林水産業における新産業創出などが、その主要プロジェクトとして挙がり、現在それらの整備が進められてきているところです。まさに、福島浜通りをマイナスからプラスに変えることが求められており、「イノベーション・コースト」構想は、このこ

とを実現する主要な施策であり、福島高専も、この流れに即応し貢献していきたいと考えています。

具体的には、再生可能エネルギー、原子力安全、防災・減災の三分野を充実させた復興人材育成特別プログラムの継続、福島第一原子力発電所の廃炉に貢献する教育・研究活動や、汚染された環境の回復に資する教育・研究活動などについて、更に発展させたいと考えています。また、国連が中心となって、現在、進められている「持続可能な開発のための教育」、英語では、ESD(Education for Sustainable Development)といいますが、これを福島高専でも充実させたいと考えています。このESDは、世界が注目する福島浜通りの復興を目指す私たちにとって、非常に重要な概念だと私は考えているからです。

また、グローバル化の時代にあって、国際感覚を身に着けることは必須です。福島高専は、現在、関東圏の高専で構成される「第二ブロック」に所属していますが、福島高専は、昨年、この第二ブロックのグローバル高専の拠点校になりました。現在、他高専の模範となるべく、学生諸君の海外留学や、英語力向上について多くの取組を実施しているところです。専攻科への入学諸君は、自らの英語力を向上させ、是非とも海外インターンシップなどに挑戦してください。さらに、最近の産業分野では、技術の大型化や高度化によって、より高度で多様な知識や技術が必要とされています。これらの様々な観点から将来の自分を考えて、学習計画をたててください。専攻科生として十分な知識・技術と教養を身につけることができるよう、また、後輩の良き手本となるように日頃から勉学に励んでください。

最後に、新入学生諸君全員には、日々健康に気を付けながら、勉学や人間形成に励み、本校を巣立つまでに大きく成長して、社会に、大学に、大学院に進んでいけるよう祈念して式辞といたします。

三主事・専攻科長あいさつ



意欲をもって勉強を

教務主事
大 槻 正 伸

教務主事3年目になります、電気電子システム工学科の大槻です。よろしくお願い致します。

福島高専は、今年度工学系4学科を改組しました。平成27年度に

は専攻科改組、平成28年度にはビジネス系学科の改組があり、この平成29年度の改組で完結した形となります。改組後はどの学科も、もちろん基礎的なところは共通で学習しますが、現在の科学技術の動向を取り込み、さらに学生は幅広く科目選択ができるようになり、いわゆるセルフキャリアデザインが従来よりもやりやすくなります。

今後は特に学科改組後のカリキュラム実施等をしっかり行うこととなりますが、体制がどのように変化しようとも、私が常に言いたいことは「意欲を強く持ちしっかり勉強してください」ということです。先日の集会でもお話ししましたが、学生のうちの勉強は、全て手をぬけないものばかりです。若い学生のうちに意欲をもってたくさんのかを身につけてほしいと思います。そのための支援をして、基礎学力の充実、実践力の向上にむけて少しでもお役に立てるよう努力していきますので、今後ともよろしくお願い致します。



自分も周囲も美しく

学生主事
笠 井 哲

4月から、学生主事を務めている笠井です。3年間の寮務主事の経験を活かしつつ努力していきます。ご協力のほど、よろしくお願い致します。

学生は、まず人の嫌がることをしないようにしてください。SNSの使用については、ご家庭でもご指導願います。誤って他人の人権を侵すことのないよう、常に正しい道徳感覚を養わなければなりません。

また、挨拶は社会生活の基本です。自分から挨拶することを心がけてください。挨拶を進んで行うことは、世界共通のマナーです。お互いに挨拶を交わす間柄になれば、いじめもなくなるのではないのでしょうか。

さて後期から、生活規則を見直します。このたび頭髪の変色禁止を、3年生以下に変更しました。3年生までは、頭髪はもちろん制服についても、現行の規則を守るように指導します。学生は、言葉遣いや挨拶や身なりというものが、自己の心の表現であると自覚すべきです。他人に不快感を与えないようにするだけでは、十分ではありません。さらに進んで思いやりのある言動、さわやかな挨拶、端正な身なりを心がけることにより、自分も周囲も美しくなるよう努めて欲しいと思います。よろしくお願い申し上げます。



心身ともに 健康な寮生活を

寮務主事
松 江 俊 一

磐陽寮では例年の倍に相当する53名の新入寮生を迎え、本年度は186名の寮生でスタートしました。新入寮生は初めて親元を離れ不安

と期待に満ち溢れた表情でした。しかしそれも入学式当日に行われた新入寮生歓迎夕食会を皮切りに、昨年度から実施している歓迎行事のカレー作り大会と食事会での自己紹介タイム等で払拭されたようです。前期中1人の退寮者を出すことなく順調に寮生活を送っています。

寮の運営面では今年は全国高専の標準に倣い、昨年度来の目標であった宿直教員1名体制を後期から実現することができました。それに伴い施設面での防犯体制の強化を図り、長年の懸案だった男子寮主要玄関のオートロック化改修工事を10月に行う予定です。

また、一昨年度から推進してきた「自主・自律の育成」として、今年は3年振りに寮生会役員選挙が自主的に行われました。寮生会役員の主導のもと、上級生と下級生が互いに協力し合い、心身ともに健康で規律ある寮生活を営めるよう、寮務委員会としても力を尽くしていきたいと思ひます。これからの自然な振る舞いとして、後輩に手本を示し先輩を敬って相互に信頼し合える関係を築いていってほしいと心から願っています。



高専を地域を支える 人材の育成

専攻科長
原 田 正 光

専攻科長3年目になる都市システム工学科の原田です。今年度は専攻科に新入生を29名迎えることができました。専攻科創立からこれまで

12年間で本校専攻科を巣立った修了生は315名です。本科の卒業生7975名に比べると、専攻科は歴史が浅いこともあり、輩出数はとても少ないのですが、今後本校存続にとって重要な人材育成でもありますので、専攻科スタッフ一同学生の教育指導に邁進していく所存です。

ところで、専攻科生は修了後に3割程度が国立大学の大学院に進学します。一方、3割程度の学生が地元の企業等に就職して地域で活躍する人材になります。地元への就職の中には公務員も含まれており、本科卒業では進むことができない大卒レベルの上級公務員となります。地域の企業からは専攻科修了生を是非地元に残して欲しいという要望が強く出ています。そのような中、専攻科では復興人材育成特別プログラムを開設して、学生個々の専門分野を基にさらにさまざまな状況や課題に柔軟に対応でき、将来地域を支える優秀な人材を育成にも取り組んでいます。保護者の皆さま、地域の皆様には今後とも、学生が思う存分勉学に励み学生生活を送ることができるよう、ご支援ご協力をお願い致します。

各科の近況 [本 科]



一般教科の近況

一般教科長 鈴木 三 男

半年近くが経過し、1年生はすっかり高専での生活に慣れ、2年生も先輩らしさが板に付いて来ました。高専の授業は学年を追うごとに難しくなってくるので、きちんとした学習習慣や自己解決する方法を早くから身につけて貰いたいと思っています。

さて、教員の異動についてご報告いたします。平成29年3月末には、英語科の市川誠先生が東京理科大学基礎工学部（長万部）に、物理科の磯上慎二先生が物質・材料研究機構（NIMS）にご栄転されました。先生方には担任、課外活動の顧問、各種委員会の経験を活かし、これから一般教科の中核を担う教員として多に期待していたので、残念でなりません。先生方の将来のためにも転出先での活躍をお祈りしたいと思います。

代わって、昨年10月には数学科に馬場蔵人先生の後任として伊野翔次先生、この4月からは英語科に小倉恵実先生、物理科に千葉貴裕先生が赴任されました。新任の先生方には授業や課外活動の中で、常に学生の力を伸ばしてやろうという気持ちで、教科教育・学生指導にあたって貰いたいと思います。

一般教科の教員は、学生の基礎的学習能力を養い、また学生の人間性育成のために、学級担任指導や課外活動指導を熱心に行っております。



機械システム工学科の近況

機械システム工学科長 高 橋 章

機械工学科は、今年4月に開校以来初めてとなる学科改組により、「機械システム工学科」となりました。これにより、機械工学と他分野との連携をさらに深め、高度化するシステムに対処できる技術者の育成を目指すようになりました。従来からも社会情勢に対応したカリキュラムを編成して参りましたが、今回の改組で特に廃炉やロボット技術の内容を強化することとなります。

さて、新任教員として、東京工業大学大学院から4月1日付けで野田幸矢先生をお迎えすることができました。野田先生の専門はロボット工学であり、機械システム工学科の目標に到達するために御尽力いただけることと思います。

ところで、施設面では実習工場が改修され、10月からはさらに良い環境で実習が行えるようになります。加えて機械システム工学科棟と実習工場の間に「多目的演習室」という新しい建物が来年3月までに竣工する予定です。

5年生の進路状況につきましては、就職希望が29人、進学希望10人と今年は就職希望者が多くなっております。

今後も優れた学生を輩出するために機械システム工学科教員一同努力を惜しまない所存ですので、ご家庭からの御協力も引き続きお願い申し上げます。



電気電子システム工学科の近況

電気電子システム工学科長 鈴木 晴 彦

平成29年度より、工科系4学科は学科名称を変更し、新たな教育カリキュラムを制定しスタートいたしました。電気工学科は開学以来、一度も学科名称を変更すること無く、教育カリキュラムの見直しにより時代の要求に合わせた技術者教育の指導をしてまいりました。この4月より「電気電子システム工学科」と名称変更し、学科の教育の柱を「電力情報」、「制御情報」とし、「電力マネジメント」や「ロボット制御技術」の分野に対し、低学年から学んでいける教育体制を整えることとしました。

さて、今年の5年生（37名）の進路希望は、概ね進学40%、就職60%であります。10月初旬の時点で、進学希望者の多くが進学先を決定しており、本校専攻科が4名、長岡・豊橋両技大が計5名、その他の国立大学が7名などです。一方、就職希望学生の就職内定先の一例としては、アルパイン、六興電気、日東紡、JR東海、出光興産、東京ガス、森永乳業、JALエンジニアリング、三菱ビルテクノサービスなど大手企業の内定も実現しております。

また、改組した機械システム工学科との共同で、平成28年度末より「いわきEVアカデミー」という電気自動車の技術を学ぶプロジェクトや、「エネルギー・ハーベスティング&バッテリー研究開発推進による人材育成」という「環境発電」をベースとした教育・研究に関わるプロジェクトをスタートし、未来の技術者育成に積極的に取り組んでおります。

各科の近況 [本 科]



化学・バイオ工学科の近況

化学・バイオ工学科長 青 柳 克 弘

今年度も昨年度に引き続き学科長を拝命しております。よろしくお願いいたします。今年度から、物質工学科は、化学・バイオ工学科に改組（名称変更）されました。化学教育を基軸にすることに変わりはありませんが、コース制による材料と生物の教育から、そこに農業と環境を加えたそれぞれの分野の自分の興味に合った科目を選択し、履修することができるようになりました。

次に、教員の移動ですが、昨年度採択された原子力規制庁の人材育成事業に関わる教員として、平成28年11月に生物、生物化学分野の十亀陽一郎先生、平成29年1月に同位体地球化学、環境工学分野の佐藤佳子先生が赴任されました。お二人とも5年間の任期付きですが、我々の仲間として学生の教育にご尽力いただいております。

今年度の5年生37名は、14名が進学、23名が就職希望です。進学は、本校専攻科が10名と非常に多いのが特徴です。他の4名も東京工業大学をはじめとして全員の進学先が決定しました。また、就職も、化学・製薬メーカー等を中心に全員が内定をいただきました。

後期が始まっておりますが、化学・バイオ工学科では、学科改組の内容に表れているように、時代の変化に即応できる、幅広い知識をもった人材の育成に教員一同取り組んでまいりますので、ご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。



都市システム工学科の近況

都市システム工学科長 緑 川 猛 彦

今年度から学科名が変わり、建設環境工学科から都市システム工学科になりました。現在は1年生と教員の所属が都市システム工学科で2年生から5年生は建設環境工学科になっています。今後5年間をかけて全ての学年が都市システム工学科に変わっていきます。学科名の変更に伴いカリキュラム内容も変更になりました。建設環境工学科の時代には「土木」と「環境」がキーワードでしたが、都市システム工学科では「防災・減災」と「維持・管理」がキーワードになります。東日本大震災の経験から防災教育の重要性を再認識したことや、構造物の寿命を考えると今後はメンテナンス分野が重要になると考えられたためです。カリキュラムではこれらの分野の科目が多めになっています。

都市システム工学科の教員団についての近況をご報告いたします。昭和54年4月に赴任された山ノ内正司先生が平成29年3月を持ちまして定年退職となりました。山ノ内先生は福島高専土木工学科を卒業後東北大学工学部土木工学科へ編入学され、修士課程修了後に福島高専に赴任されました。授業では構造力学、構造解析学、工学実験・演習等の主に力学系科目を担当されておりました。引き続き今年度から2年間、嘱託教授として都市システム工学科の運営にご尽力頂く予定です。

また学生の動向についてですが、相変わらず女子学生の人気が高く、今年の1年生は42名中18名が女子学生で、建設環境工学科全体では200名中66名（約33%）が女子学生です。就職に関しては、今年度も企業の採用活動が活発であり例年通りの売り手市場で、東京ガス、JR東日本、NEXCO東日本、（株）大林組等の大手企業への就職が多くを占めています。一方、今年度も進学率が高く約60%（35名中21名）が進学を希望しており福島高専専攻科、茨城大学、千葉大学等への進学が決定しています。

以上のように、学科全体としては順調ですがこれも学生が優秀であるおかげです。良い学科であるよう都市システム工学科教員一同取り組んで参りますので、ご家庭におきましてもご支援ご協力のほどよろしくお願い致します。



ビジネスコミュニケーション学科の近況

ビジネスコミュニケーション学科長 西 口 美津子

設立20年を経たコミュニケーション情報学科が新たに「ビジネスコミュニケーション学科」へ改組して2年近くが経ちました。学生の間では「ビジコミ」の愛称も定着し、グローバル化やキャリアの多様性に対応した授業が始まっています。今年の春にはフランス・UTLアーブル校とフィンランドのチュルク応用科学大学のビジネス専攻の学生、各2名を短期留学生に迎えました。本科2年生と3年生がカナダの高校へ一年間留学しながら進級できる制度も整い、チャレンジの機会が広がっています。教員では、9月から来年3月まで芥川教授が在外研究員

として米国ニューヨーク大学に滞在中で、パワーアップして帰国される先生の活躍に期待したいと思います。

今年度の5年生36名のうち、就職希望は19名と進学希望を若干上回り、昨年同様、地元企業や大手企業への就職が決まっています。進学では、文系国立大学の編入試験が後期になるため、現在、筑波大学を初め合格の知らせが続いている状況です。また、5年生の女子2名が、全国高専卓球大会で3年連続、団体とダブルスで優勝し特別表彰されるという嬉しいニュースが届きました。部活やサークル、そして勉学にひたむきに努力する学生達の姿には心打たれます。

今後も教員一同学生の育成に全力を尽くす所存ですので、ご支援ご協力の程どうかよろしくお願いいたします。

各科の近況 [専攻科]



生産・情報システム工学コースの近況

生産・情報システム工学コース長 寺田 耕輔

今年度の生産情報システム工学(PI)コースへの入学者は7名で、その内訳は本科機械工学科卒業生が3名、電気工学科は4名です。PIとESコースは、このように機械工学科と電気工学科卒業生が交わり、シナジー効果が期待されています。この夏休みには、専攻科1年生諸君は、国内外でのインターンシップ(企業および大学等)を活発に行っています。PIコースからは、国外として中国やフランスを希望しています。学校教育だけでは経験できない良い機会を学生諸君が体験していることがインターンシップ報告書からうかがえます。

さて、PIコースの2年生は6名です。彼らの卒業後の進路は、就職希望者が5名、大学院進学希望者が1名です。今年度の就活は新聞やTV等で報道されていますように、昨年度に引き続き非常に好調に進んでいます。当コースの5名も東京電力ホールディングス株式会社、株式会社日立製作所、富士通株式会社に2名、NECフィールディング株式会社等に内定しています。他方の大学院進学希望者1名は長岡技術科学大学大学院に推薦入試ですでに合格しています。

以上のように、積極果敢な活動を展開しており、今後とも全力を挙げて精進してまいります。



エネルギーシステム工学コースの近況

エネルギーシステム工学コース長 伊藤 淳

機械工学科卒業生4名、電気工学科卒業生2名の新たな入学生を迎えた年度当初から、早くも半年が経とうとしております。心機一転して入学してきた1年生は、企業におけるインターンシップや海外インターンシップを経験することで、将来、エンジニアや研究者として活躍するための資質を向上することができたものと確信しております。

また、2年生も研究活動が本格化するなか、修了後の進路に向けて入学試験や就職試験を行い、大学院へ2名が進学、企業へ5名が就職と修了後の進路が全員確定しました。今後、修了に向けて益々充実した研究が行えるよう、期待しています。

エネルギーシステム工学コースではエネルギーの有効活用や再生可能エネルギーの積極的な活用などを中心に学習し、これらに関連する研究を行っています。その研究成果は大学院生や企業の研究者も参加する各種の学会等で活発に報告されています。今後とも多くの学生が広い視野を持ち充実した学生生活や研究活動を送れるよう願っています。



化学・バイオ工学コースの近況

化学・バイオ工学コース長 車田 研一

2017年度は1年生4名・2年生6名とやや小所帯のコースですが皆さんそれぞれに自分の途中で日々がんばってくれています。結果はおのずとついてくるでしょう。

学校の役目については古今さまざまな見解があります。とはいえ、「教える」vs.「教わる」という固定的な対置関係が為せるところには甚だ限界あり、というのは、スタッフ・学生双方にとっていささか痛覚的事実です。意図せざる状況ではとさせられる経験をスタッフ・学生双方が幸福な共鳴(delightful resonance)として得るような力動的な場を創る不断の意識的な工夫と努力こそが専攻科に課せられる最大の不文律的課題です。このような、掴みようがないにもかかわらず頗(すこぶ)る肝腎な課題を、生身の切実な途絶えざる宿題として遁(に)げずに、かつ、めげずに抱えつづけることが、教員としての最重要の努め(≠勤め)です。このことが明日も来月も来年も、倦まずに悪戦苦闘することが、たまさか若き日の数年間ここを学び舎とする千余名の学士諸氏への最大のサービスであると胆に銘じ、日々を重ねてまいります。

各科の近況 [専攻科]



社会環境システム工学コースの近況

社会環境システム工学コース長 齊藤 充弘

今年度は、1年生7名、2年生3名のメンバーによりスタートしています。2年生の進路も順調で、3名ともに就職先を決定しています。その内訳は、市の公務員、建設系のコンサルタント企業で、2名が地元いわき市に就職する予定です。この先進地域や立場は異なっても、現在学んでいることや経験していることをいかして、ぜひ日本の復興・発展の担い手として活躍して欲しいです。

1年生は、前期の学習を経て夏季休業中にインターンシップに行ってきました。行き先は、国立の研究開発法人や一般財団法人、建設系のコンサルタント企業や市役所などです。本科4年次とは異なる経験や知識を備えての実習を通して、あらためて現場や専門分野の違いに戸惑いながらも、それぞれの専門を柱とする業務を目の当たりにして日頃の学習内容を深く理解し、その重要性を再認識してきたことと思います。

研究への取り組みも活発で、第52回地盤工学研究発表会全国大会において、2年生の松崎慎也さんが豪雨部門で、1年生の小野里花子さんが堤防部門でそれぞれ最優秀論文発表者賞を受賞しました。前期を通して得た経験を活力に変えて、後期も引き続き教育・研究活動にみんなで協力して取り組むことが期待されます。



ビジネスコミュニケーション学専攻の近況

ビジネスコミュニケーション学専攻長
ビジネスコミュニケーション学コース長 湯川 崇

今年度ビジネスコミュニケーション学専攻には1年生が5名（女子5名）、2年生が5名（男子1名、女子4名）在籍しています。

1年次に実施されるインターンシップでは、4名がフランスのIUT（技術短期大学）ルアーブル校、アメリカのEmbassy English New York、アメリカのニュー・メキシコ大学、中国の大連東軟信息学院にそれぞれトビタテ！留学JAPAN地域人材コースの支援を受けて海外留学をしており、1名が国内企業で研修を行いました。高専で学んだ語学力やコミュニケーション力を生かした海外での文化体験や、高専では学ぶことができない社会人としての経験を通じて成長してくれることを期待しています。

2年生の進路は全員就職希望で、5名全員が民間企業から内定をいただいています。

2年生は今後修了に向けてこれまで行ってきた特別研究の成果をまとめて論文を執筆する時期になります。福島高専専攻科は独立行政法人大学改革支援・学位授与機構の特例適用専攻科の認定を受けており、学位試験を受験することなく専攻科修了時に学士の学位を取得することができます。

専攻科は2年間という短い期間ではありますが、全員が修了後の進路目標を達成できるよう、教職員一同全力で支援していきたいと考えております。



本校では、主に4年生と専攻科1年生に、校外実習・実務研修などの科目を設定し、企業などの協力を得て、インターンシップを実施しています。校外、実務の場に身を置くことで、技術者の役割を認識すること、学校で習得している知識が実社会でどのように活用されているかをそれぞれの学生が理解することを目的としています。

本校では、こうした経験を今後の学習に活かし、社会人として必要とされる知識などを卒業までに身につけるように、教育と指導を行っています。

日本の工場と比較して学べたこと

機械工学科4年 安田 航平

私は約2週間、タイにあるサイアム・フルカワ社にてインターンシップを行ってきました。サイアム・フルカワ社とは国内で自動車用バッテリー等を開発・製造するいわき市に会社がある古河電池という会社の海外拠点の一つです。本研修では、バッテリー製造機械の検討や発注、導入、点検など機械をサポートするエンジニアの職場見学、実習を行いました。

一週目はエンジニアの仕事の説明と現場の見学を中心とした研修でした。その研修で特に印象に残るのが、現場に出るとき工場内で起こる事故を未然に防ぐ大切さを身に付けるために安全道場というものを体験したことです。具体的には機械に作業服の袖が巻き込まれる訓練などを行いました。袖を巻き込まれる体験をし、恐怖を感じたと同時に常に危険と隣り合わせであることを改めて認識しました。

二週目は現場を中心とした作業でした。その作業の中で危険を予測し、改善をする安全検査の体験では、作業者の

安全第一を優先するために危険なポイントを黄色に変えて知らせるなど、工場内の工夫がありました。また、現地のエンジニアの方が改善のことを「Kaizen」と日本語読みであり同じ意味で認識されており、日本の考え方は世界でも水準の高いものと改めて感じました。

私は海外インターンシップという貴重な体験をさせて頂き、ものを生産する時の心構えは日本と海外も共通する部分が多いと感じました。工場見学を今まで行ってきて、よく目にする指差し確認など日本で行っていることがタイでも行われており大切な確認作業であることを改めて学びました。

また、自分の専攻している分野だけではなく他分野との連携を取ることで最高の仕事ができると教わりました。

古河電池の方をはじめとする関係者の皆様、ご指導ご鞭撻のほどありがとうございました。



有限会社品川通信計装サービスでのインターンシップ

電気工学科4年 田中 登馬

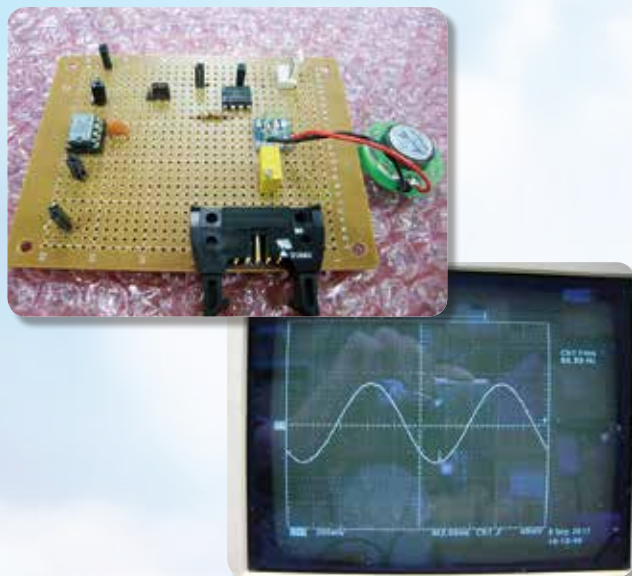
今回、私は有限会社品川通信計装サービスで5日間のインターンシップをさせていただきました。

有限会社品川通信計装サービスは「計測・通信・制御・機械・ソフトウェア」の5つを軸に広い分野で開発を行っている会社であり、主な製品として、ユニバーサルロボット等の医療用・産業用ロボット、三次元画像処理ソフトがあります。従業員は45人と比較的小規模であるものの、電気製品の基本的な回路からソフトウェアまでを1社で担う、開発を行う中でも少し特殊な会社です。

私はインターンシップ中の仕事として、「ホワイトノイズ発生源を作成し、圧電サウンダーを鳴動させる回路」の作成を行いました。電気回路に詳しい社員の方にアドバイスを貰いながら回路を考え、基板上に作成を行い、測定の結果から失敗の原因を推測して回路を再検討する、といった流れを繰り返し続けました。最終的にホワイトノイズ源を作成し、圧電サウンダーに繋げてみたところ、音は鳴りませんでした。失敗の原因も特定でき、改善の余地も見つかったものの、インターンシップの期間中に回路を完成させることはできませんでした。

今回のインターンシップは、実際の開発現場を見てみたいという率直な気持ちで向かったものでしたが、想像を超える体験ができました。学校とは違い、最低限の材料しかなく、計測機器を使うにも専用のケーブルを作成すると

いったことは今までにない経験だったので、新たな刺激を得ることができました。また、改めて自分自身の知識の浅さを痛感することとなりました。基礎的な技術・知識があることによってお客様に提供できる製品の開発ができているとわかり、今後私が回路を作成する際にも回路を理解し正確なモノづくりができるように意識したいと思います。



インターンシップを終えて

物質工学科4年 會川 結衣

私は今回、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構の野菜花き研究部門 花き遺伝育種研究領域 ゲノム遺伝育種ユニットのインターンシップに参加させていただきました。私は以前から、花きについての研究に興味があり、将来的に花きの研究に携わる仕事に就きたいと考えていました。そのため、花きについての研究を行っている現場や設備、実際の業務内容等を体験したいと思い、今回のインターンシップ先を選びました。

インターンシップ中は、研究対象の花き等を栽培している圃場の見学、カーネーションの病気に対する抵抗性と倍数性の評価を行いました。

カーネーションの病気に対する抵抗性を調べる際は、高専4年の実験で行った、PCRや電気泳動と共通している部分があり、学んだことを生かすことができました。その一方で、授業では使用する機会のなかった器具や機械を使用することもあり、貴重な体験ができました。また、カーネーションの倍数性の評価の際はフローサイトメーターという機械を用いて、カーネーションの品種によって倍数性が異なることを確認しました。倍数性とはゲノムを何セット



持つかを示します。人間の場合は両親からそれぞれ1セットのゲノムを受け取るため合計2セットのゲノムを持ちます。これに対し、カーネーションがもつゲノムのセット数は品種によって異なり、この数の違いをフローサイトメーターにより測定しました。

今回のインターンシップでは、自分の未熟さを改めて知り、学校の勉強はもちろん、自主的に学んでいくことも必要であると感じました。自分が就きたい仕事の研究現場で実習を行ったことで、花きの研究に携わりたいという思いがより一層強くなりました。これからの進路に役立つ大変貴重な体験ができたと思います。

最後になりましたが、お忙しい中、インターンシップを受け入れてくださった国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 野菜花き研究部門 花き遺伝育種研究領域 ゲノム遺伝育種ユニットの皆様、本当にありがとうございました。



「良い仕事は職場環境から」 建設環境工学科4年 諏江 あきほ

私が今回、インターンシップを経験させて頂いたのは、国土交通省東北地方整備局の小名浜港湾事務所です。私は地域の発展に繋がる仕事に就きたいと考えているため、地域発展に重要な社会資本の整備を行っている国土交通省を希望しました。

実習内容としては、港湾についての講義、現場研修、防波堤に関する計算などがありました。初めは、港湾事務所であったため、港湾に関わる橋梁や防波堤などの設計について知識があればよいと考えていたのですが、実習の中で設計の知識だけではなく、港湾に関する法律、貿易の利益や不利益、周辺地域との共存などについても考慮する必要がありますを知りました。また、演習では防波堤の安定性について検討や対策を行い、海の状態や気候の変化など港湾ならではの設計の難しさを知ることが出来ました。現場研修では、船による海上視察や、普段は立ち入る事の出来ないふ頭を見学させていただき、とても貴重な体験になりました。

そして、最も印象に残ったことは職場環境の良さです。仕事と育児の両立を図る両立支援制度があることを説明していただき、女性も活躍することのできる環境であることを知りました。また、各県に点在する事務所や出張所を約

2、3年のペースで異動するため、様々な経験を積み、視野が広がるのではないかと感じました。勤務地や職務に関する希望も考慮してもらうことが可能なため、非常に魅力的な職場環境であると思いました。今回のインターンシップを通して経験したことを、将来の進路決定に役立てていきたいと思います。

最後に、インターンシップを受け入れてくださった小名浜港湾事務所の方々、ご指導してくださった先生方、本当にありがとうございました。



いわき市役所でのインターンシップを経験して ミュニケーション情報学科4年 藤間 なつみ

私は今回、いわき市役所産業振興部産業創出課で、8月21日から31日まで、計9日間のインターンシップを行いました。主な実施内容は、いわきバッテリーパレー構想のパンフレット原案作成、市内企業の訪問、販路開拓などのセミナーの受講、各種講義の受講の4つです。いわきバッテリーパレー構想のパンフレット原案作成では、いただいた資料をもとに、構想のポイントをA4サイズの用紙4枚にまとめました。そして、市内企業への訪問では、9日間で5つの企業を訪問し、様々なお話を聞かせていただきました。この経験は、今回のインターンシップの中でも特に印象に残っています。8月28日にいわき市生涯学習プラザで行われた、販路開拓セミナーに出席した際には、私が普段学んでいるマーケティング戦略や、会社経営の方法などを、実際にどのように使っていけば良いのかということ学ぶことが出来ました。これらの他には、いわき市の産業史と、いわき見える化プロジェクトについての講義を受講するなどしました。

今回のインターンシップは9日間という短い時間でしたが、以上のようにたくさんのことを経験でき、非常に密度の濃い実習をすることができたと思っています。産業創出課のみなさんは、緊張していた私にとっても優しく接して

くださり、実習を重ねるにつれ、インターンシップの楽しさは増していきました。また、産業創出課のみなさんと一緒に様々な仕事をさせていただくうちに、今の自分に足りないスキルがなんなのかということを理解することが出来ました。この経験を無駄にせず、卒業までの時間を使って、自分に足りていないスキルを身につけていきたいです。



夏季実習を通して

産業技術システム工学専攻 社会環境システム工学コース 1年 武藤 尚樹

私は日本原子力研究開発機構で2週間の夏季実習に参加してきました。私がお世話になった環境動態研究グループでは、原子力施設から発生する放射性物質の環境分布の把握のための現地データの取得や分析、今後の環境動態のシミュレーションなどを行っています。夏季実習では、「福島地区における放射性セシウムの環境動態研究」というテーマで、福島県内の山地森林に存在する放射性セシウムの環境中での挙動を知るための現地調査・分析を行いました。

現地調査では、河川、貯水池、河口域の実際のフィールドにおいて、土壌、水のサンプリングや空間線量率の測定などを行いました。

分析では、現地調査でサンプリングした試料を用いて、土壌の粒度分析や試料に含まれる放射性セシウム濃度の測定などを行いました。

原子力部門の研究の最前線で活躍されている研究者の方々からのご指導をいただきながら、サンプリングから分析にいたるまでの一連の研究内容を実務に近い形で体験できたことは、自身の原子力に関する知見を広めるとともに、研究や学生生活のモチベーションを高めることにもつながりました。

また、取りまとめや発表の過程を、専攻が異なる他の大学院生と議論しながら進めることができたことは、多角的な視野を持って問題解決にアプローチすることができた実りある経験となりました。

2週間の夏季実習は、自分にとって大変刺激的で充実した日々を過ごすことができました。実習を通して得られた知識や経験を活かし、今後の学生生活や進路選択に、広い視野を持って取り組んでいきたいと思います。



夏季休業中のインターンシップを終えて

ビジネスコミュニケーション学専攻
ビジネスコミュニケーション学コース 1年 佐藤ちひろ

私は8月に大和リゾート株式会社での18日間に渡る実習を行い、その後、丹野経営会計株式会社でのインターンシップに参加しました。授業で簿記や会計学を学んでいたことから会計業務に興味があったものの、自分の仕事に対する志向を広い視野で確かめなかったため、全く異なるホテル業界と会計業界でのインターンシップに参加することになりました。



大和リゾート株式会社ではホテルの営業部フロント担当に配属され、お部屋へのお荷物の出し入れやエントランスでのお客様への対応などを担当しました。体力が必要とされる仕事なので、30秒以上の手洗いや十分な休養など体調管理を徹底し業務に臨みました。繁忙期のため仕事が多く大変でしたが、お客様のお役に立てた瞬間やサービスに満足していただけたときなどにはやりがいを感じることができました。

その後、会計事務所でのセミナー形式のインターンシップに参加し、申告書の作成や経営分析などの実習を行い、

決算書の読み方やコンサルタント事例について学びました。すでに座学で触れていた知識でしたが、決算書や勘定項目などの実務における役割や意味合いなどを新たに知ることができ、会計業務への興味がより強くなりました。事例を通して地域経済を支えているという会計事務所の魅力を伺うこともできました。

これらのインターンシップを通して、どのような職場でどのような仕事がしたいかというイメージが以前より明確になり、他の学生や職員の皆さまとの交流を経て就職活動へのモチベーションが高まりました。また、どのような仕事であっても積極的なコミュニケーションや自発的な学びが重要であることに気づかされました。お忙しい中このような貴重な機会を与えてくださった関係者の皆さまにこの場をお借りして心よりお礼申し上げます。



◆インターンシップ協力企業等一覧 ご協力に感謝申し上げます

(種類別にアイウエオ順)

〈企業等〉

ANAラインメンテナンステクニクス株式会社、DIC株式会社、株式会社dreamLab、株式会社JALエンジニアリング、JFEスチール株式会社、株式会社jig.jp、株式会社JTB東北いわき支店、JXTGエネルギー株式会社仙台製油所、株式会社Mテック、NECフィールディング株式会社、株式会社NTTファシリティーズ東北、株式会社NTT東日本-東北、Villa Sweet Angkor Hotel、アクアエンジニアリング株式会社、株式会社アルピオン熊谷工場、あすか製菓株式会社いわき工場、株式会社東コンサルタント、アルパイン株式会社、アルパインニューファクチャリング株式会社、出光興産株式会社、いわき信用組合、株式会社エイブル、荏原環境プラント株式会社、応用地質株式会社、小川香料株式会社、株式会社小野工業所、小野田ケミコ株式会社、思い出浪漫館、オリエンタル白石株式会社東北支店、花王株式会社、河井順行税理士事務所、川田工業株式会社、キャノン株式会社、株式会社クレハ環境、ケンコーマヨネーズ株式会社、株式会社江東微生物研究所、株式会社鴻池組東北支店、五洋建設株式会社、堺化学工業株式会社小名浜事業所、サントリーホールディングス株式会社、三洋化成工業株式会社、株式会社シグマ会津工場、株式会社資生堂久喜工場、有限会社品川通信計装サービス、清水敏男後援会事務所、株式会社常磐エンジニアリング、常磐開発株式会社、常磐共同火力株式会社勿来発電所、株式会社常磐製作所、城北化学工業株式会社、新常磐交通株式会社観光事業部常磐交通観光、新日鐵住金株式会社、星光PMC株式会社、ソニーコーポレートサービス株式会社、ソニーストレージメディアマニュファクチャリング株式会社、第一三共ケミカルファーマ株式会社、ダイキンエアテクノ株式会社、ダイキン工業株式会社、タカハギ保険代行株式会社、田中貴金属グループTANAKAホールディングス株式会社、タニコー株式会社、株式会社タンガロイ、株式会社地質基礎、中央復建コンサルタント株式会社、株式会社デージーエスメディカル、株式会社テム口、電源開発株式会社、東京ガス株式会社、東京水道サービス株式会社、東京電力ホールディングス株式会社福島第一廃炉推進カンパニー、東京都下水道サービス株式会社、東北電力株式会社、東洋システム株式会社、東横イン郡山、東レ株式会社、ドービー建設工業株式会社、トヨタカロライいわき株式会社、日栄地質測量設計株式会社、ニチレキ株式会社、日化エンジニアリング株式会社、日新電機株式会社、

日東電工株式会社、日本オーチス・エレベータ株式会社、日本空港テクノ株式会社、日本ケミコン株式会社、株式会社日本色材工業研究所、長谷川体育施設株式会社東北支店、パナソニック株式会社オートモーティブ & インダストリアルシステムズ社、パナソニック環境エンジニアリング株式会社、株式会社ハニーズホールディングス、株式会社東日本建設コンサルタント、東日本高速道路株式会社、株式会社日立製作所、日立造船株式会社、ひまわり信用金庫、廣田証券株式会社東京支店、フードテクノエンジニアリング株式会社、福浜大建設株式会社、富士アイティ株式会社、株式会社ふたば、フタバコンサルタント株式会社、古河電池株式会社、株式会社マイスターエンジニアリング、前田建設工業株式会社東北支店、丸磯建設株式会社、三井金属鉱業株式会社機能材料事業本部機能材料研究所、三菱電機ビルテクノサービス株式会社、三菱マテリアルテクノ株式会社いわき事業所、株式会社メディア総合研究所、株式会社モディー、八幡印刷株式会社、平商事株式会社ヤマニ書房本店、若築建設株式会社、株式会社ワンダーファーム

〈官公庁・公益法人等〉

一般財団法人電力中央研究所地球工学研究所バックエンド研究センター、一般財団法人ふくしま市町村支援機構、いわき市役所、いわき芸術文化交流館アリオス、いわき市立郷ヶ丘小学校、いわき市立平第五小学校、公益財団法人東京都都市づくり公社、公益財団法人ふくしま海洋科学館アクアマリンふくしま、国立研究開発法人海上・港湾・空港技術研究所港湾空港技術研究所、国土交通省東北地方整備局、国立研究開発法人日本原子力研究開発機構、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構、国立研究開発法人物質・材料研究機構、大学共同利用機関法人自然科学研究機構核融合科学研究所、特定非営利活動法人次代の創造工房、特定非営利活動法人じぶん未来クラブ、福島県庁

〈大学〉

茨城大学、宇都宮大学、東京大学、東北大学、長岡技術科学大学、山形大学、ヴァランシエンヌ技術短期大学(フランス)、カレー技術短期大学(フランス)、ルアーブル技術短期大学(フランス)

ボランティア留学 – “教える” を学ぶ –

ビジネスコミュニケーション学科2年 國分 悠菜

トビタテ！留学JAPAN高校生コースに参加し、フィリピンのボゴシティに約4週間滞在しました。小学生の部活動見学、幼稚園生の創作活動の手伝い、アルファベットや数字のチェック等を通して、子供たちとのコミュニケーションの取り方、指導の仕方を学ぶ中で、文化の違いについても学び、フィリピンの子供たちと日本の子供たちの感じ方や性格の違いを知りました。

この留学を通して、私は将来、フィリピンで教育に携わりたいと思うようになりました。休み時間を使って、小学生に折り紙や紙風船、ぬりえを教え、一緒に遊び触れ合う中で、“教える”ことの



楽しさや難しさ、大変さを知ると同時に、そういった難しさや大変さをも含めて、自分は“教える”ことが好きなのだ強く感じることができました。そこで、福島高専卒業後は、大学に進学し教育や語学について学び、資格取得を目指すべく、今以上に英語や現地の言葉を学習していきたいです。お世話になった幼稚園の先生のように、子供たちを笑顔にでき、悪いことは悪いとはっきり叱ってあげられる、素敵な先生になりたいと思います。

また、今回は現地の言葉が分からず、子供たちが泣いていても喧嘩をしていても、先生やスタッフさんを頼るばかりで何もすることが出来なく、とても悔しい思いをしました。そこで、これからは、周りをよく見て相手の表情や雰囲気から、何に苦しんでいるのか、どうしてほしいのかを感じ取ることの出来る人間、何も出来ないとしても、“まずは動く”ということが自然に出来る人間になりたいと強く思うようになりました。



皆さんにも留学を通して、素敵なものや景色、人に出会い、自分の好きなことやかけがえのない大切なものを見つけて欲しいです。

廃止措置研究・人材育成推進室の取組

廃止措置研究・人材育成事業の実施状況

廃止措置研究・人材育成推進室長 青柳 克弘

本校では、平成27年度より福島第一原子力発電所の廃炉に向けた廃止措置研究・人材育成事業に取り組んでいます。

初めに教育ですが、今年度は昨年度までの放射線基礎、廃炉と社会、廃炉ロボット概論、廃炉工学に加え原子力

発電基礎と原子力事故総論を開講しました。これらの授業は、本校だけでなく、全国の高専にテレビ会議システム等により配信されています。また、夏季休業中には「海外サマースクール」が開催され、全国から7名の高専生が参加しました。今年度は、アメリカ合衆国ハンフォードサイト、カリフォルニア大学バークレー校等を訪問しました。それから、12月には昨年度に引き続き、日本原子力研究開発機構櫛葉遠隔技術開発センターにおいて、廃炉創造ロボコンを開催します。すでに、高専15校、16チームの参加が決定しております。



次に研究ですが、全国高専のネットワークを利用して廃炉に関する基盤研究を進めています。年に2回、成果報告会を行っており、9月にはテレビ会議システムを利用した研究報告会を開催しました。



平成29年度 体験入学を終えて

入学者対策専門部会長 根本 昌 樹

平成29年度の体験入学は、8月5日（土）、6日（日）で行われました。両日も蒸し暑い中で実施されましたが、大きなトラブルも無く無事に終了することが出来ました。昨年より約30名多い710名の参加者を得て、充実した体験入学になりました。今年の各学科のデモ実験のテーマと内容等を紹介します。

機械システム工学科

「機械工学の魅力を知ろう」というテーマで、
①機械工作実習紹介
②身の回りにあるものでモノづくり
で簡単に作れるおもちゃの製作を行いました。



電気電子システム工学科

「電気・電子の世界へようこそ 見る・触る・感じる」というテーマで①カンタン操作でロボットを動かす
②電気の力の体験を通し未来を体験して貰いました。



交流コーナー

休憩時間を利用して、①学校紹介 ②入試相談
③ミニ研究紹介 ④各種ロボコン出場実演 を行いました。更に課外活動の紹介も行いました。



化学・バイオ工学科



「化学への招待ー楽しい化学の実験室ー」というテーマで、「化学・バイオ工学科」を具体的に楽しくイメージ出来るよう「無電解めっき」のデモ実験を行いました。

都市システム工学科



「災害に強いまちを造る」をテーマに、
①体験しよう！液状化マジック
②打音検査に挑戦！！
の体験を行いました。



ビジネスコミュニケーション学科

「Be ambitious!」というテーマで、
①学科紹介 ②パワポ体験
を通してビジコミの授業を体験して貰いました。



第54回東北地区高専体育大会結果

鶴岡大会

■陸上競技 (男子)

学校対抗	
100m	志賀 智樹 (3E)
〃	長瀬 大和 (4K)
〃	横田 亮祐 (3M)
200m	鈴木 陵太 (5E)
〃	吉田 廉 (3C)
〃	横田 亮祐 (3M)
400m	鈴木 陵太 (5E)
〃	吉田 廉 (3C)
〃	蛭田 大稀 (3M)
1500m	熊谷 裕平 (4I)
〃	長谷川 勇太 (4E)
〃	根本 優作 (4K)
5000m	熊谷 裕平 (4I)
〃	目黒 光樹 (1T)
110m H	猪狩 周太郎 (2E)
〃	阿部 聖大 (1M)
3000m SC	根本 優作 (4K)
〃	長谷川 勇太 (4E)
4×100m R	(志賀・鈴木・今野・吉田)
4×400m R	(蛭田・吉田・佐藤・鈴木)
走高跳	秋野 涼 (3E)
棒高跳	松本 安基良 (2M)
走幅跳	末永 淳 (2M)
〃	今野 和樹 (5K)
〃	佐藤 優斗 (1C)
三段跳	今野 和樹 (5K)
〃	末永 淳 (2M)
〃	秋野 涼 (3E)
砲丸投	櫛田 秀人 (5E)
〃	佐藤 将富 (4C)
〃	阿部 慎太郎 (2M)
円盤投	山田 優多 (2E)
〃	櫛田 秀人 (5E)
〃	佐藤 将富 (4C)
やり投	五十嵐 拓海 (3E)
〃	志賀 智樹 (3E)
〃	智田 徹郎 (1M)

■陸上競技 (女子)

学校対抗	
100m	上坪 千華子 (3I)
〃	村越 美紀 (1T)
〃	熊本 咲英 (1B)
800m	武藤 咲希 (4I)
〃	大竹 美緒 (1T)
〃	木田 亜梨沙 (5K)
110m H	上野 美咲 (1B)
4×100m R	(上坪・龍田・村越・畠山)
走幅跳	畠山 茉鋏 (1B)
〃	龍田 千里菜 (2B)
〃	八島 すみれ (3I)
円盤投	吉田 葵 (5K)
やり投	大久保 萌 (4I)
〃	尾股 亜純 (2B)

■バレーボール (男子)

予選リーグ	福島 0-2 仙台名取
	福島 1-2 鶴岡
	福島 0-2 一関

■バレーボール (女子)

予選リーグ	福島 2-0 一関
	福島 2-0 秋田
決勝トーナメント	福島 2-0 仙台名取
	福島 0-2 鶴岡

秋田大会

■サッカー

予選リーグ	福島 1-3 仙台名取
	福島 3-2 一関

■バドミントン (男子)

団体戦	福島 0-2 秋田	1 回戦敗退
シングルス	川音 裕也 (3M)	第 1 位
〃	磯井 友真 (5C)	2 回戦敗退
〃	玉川 巧海 (3E)	2 回戦敗退
〃	門馬 捷太 (3M)	3 回戦敗退
〃	吉田 索 (3M)	3 回戦敗退
ダブルス	川音 裕也 (3M)	第 1 位
〃	門馬 捷太 (3M)	第 1 位
〃	佐藤 暁 (5C)	3 回戦敗退
〃	中塚 敏均 (4E)	3 回戦敗退

■バドミントン (女子)

団体戦	福島 1-2 鶴岡	2 回戦敗退
シングルス	川音 みのり (2B)	第 1 位
〃	青田 理咲 (4C)	第 2 位
〃	鈴木 朋華 (4I)	1 回戦敗退
〃	清水 和恵 (5C)	2 回戦敗退
〃	菅野 日和 (3C)	3 回戦敗退
ダブルス	藤枝 まみ (5K)	第 2 位
	谷口 夢実 (5K)	第 2 位

ダブルス

青田 理咲 (4C)
菅野 日和 (3C)

第 3 位

一関大会

■ソフトテニス (男子)

団体戦		第 2 位
ダブルス	伊藤 隆也 (3E)	3 回戦敗退
〃	飯塚 睦 (4M)	3 回戦敗退
〃	高橋 昂太 (5C)	2 回戦敗退
〃	鈴木 湊太 (5K)	2 回戦敗退
〃	千葉 裕太郎 (5C)	2 回戦敗退
〃	乙山 翔太 (4K)	2 回戦敗退
〃	吉田 翔太 (4K)	2 回戦敗退
〃	猪狩 智也 (3K)	2 回戦敗退

■ソフトテニス (女子)

ダブルス	大和田 夏美 (1T)	第 2 位
〃	猪狩 澄玲 (1T)	第 3 位
〃	古川 千尋 (4M)	予選敗退
〃	福田 七唯 (3I)	予選敗退
〃	大坊 知里子 (3I)	予選敗退
〃	沼田 美織 (2K)	予選敗退

■柔道

団体戦		第 6 位
個人戦 (60kg級)	福田 健斗 (1C)	2 回戦敗退
個人戦 (73kg級)	剣持 京太 (1C)	第 3 位
〃	清水 大雅 (4C)	1 回戦敗退

八戸大会

■卓球 (男子)

団体戦		第 3 位
シングルス	谷本 純一 (3E)	第 1 位
〃	加藤 翔 (4E)	第 4 位
〃	山本 崇史 (3K)	ベスト16
〃	吉田 孝信 (4E)	ベスト16
〃	赤津 陽斗 (1E)	ベスト16
〃	小野 智生 (3K)	ベスト16
〃	鶴沼 大仁 (4E)	1 回戦敗退
〃	佐々木 大翔 (4C)	1 回戦敗退
ダブルス	加藤 翔 (4E)	第 1 位
〃	谷本 純一 (3E)	第 1 位
〃	山本 崇史 (3K)	1 回戦敗退
〃	赤津 陽斗 (1E)	1 回戦敗退

■卓球 (女子)

シングルス	猪狩 葉菜 (5I)	第 1 位
〃	高橋 百花 (4I)	第 2 位
〃	岡部 あゆみ (3I)	第 3 位
〃	佐藤 泉 (5I)	第 4 位
ダブルス	猪狩 葉菜 (5I)	第 1 位
〃	高橋 百花 (4I)	第 1 位
〃	佐藤 泉 (5I)	第 2 位
〃	岡部 あゆみ (3I)	第 2 位

宮城大会

■硬式野球

トーナメント	福島 7-8 鶴岡	1 回戦敗退
--------	-----------	--------

■テニス (男子)

団体戦		第 1 位
シングルス	橋本 拓実 (4M)	第 2 位
〃	福永 勇満 (4K)	第 3 位
〃	高橋 憲人 (4M)	2 回戦敗退
ダブルス	鈴木 喬也 (5C)	第 1 位
〃	松崎 冬弥 (5M)	第 1 位
〃	橋本 拓実 (4M)	第 3 位
〃	蛭田 貴之 (4E)	第 3 位

■テニス (女子)

団体戦		第 2 位
シングルス	高橋 朋世 (4K)	第 3 位
〃	蛭田 愛未 (5C)	2 回戦敗退
〃	菊地 英里 (4I)	2 回戦敗退
ダブルス	高橋 朋世 (4K)	第 1 位
〃	蛭田 愛未 (5C)	第 1 位
〃	菊地 英里 (4I)	2 回戦敗退
〃	伊藤 有紀 (4I)	2 回戦敗退

■剣道 (男子)

団体戦		第 2 位
個人戦	矢吹 風真 (1E)	4 回戦敗退
〃	谷 朋亮 (2B)	3 回戦敗退
〃	小室 宏貴 (4K)	2 回戦敗退
〃	戸井田 凌征 (1M)	2 回戦敗退
〃	武田 達智 (4C)	2 回戦敗退
〃	門馬 瑠瑠 (2K)	2 回戦敗退
〃	芦口 亜弓 (3C)	1 回戦敗退

■剣道 (女子)

団体戦		第 2 位
個人戦	宗像 海帆 (1C)	第 2 位
〃	石塚 理奈 (1T)	3 回戦敗退
〃	村越 美月 (1E)	2 回戦敗退

福島大会

■バスケットボール (男子)

予選リーグ	福島 75-57 一関	第 3 位
-------	-------------	-------

決勝トーナメント	福島 102-70 仙台広瀬	
■バスケットボール (女子)	福島 72-80 仙台名取	
	福島 27-100 秋田	第 4 位
	福島 26-114 仙台名取	
■水泳競技 (男子)		
学校対抗		第 1 位
50m自由形	今野 裕斗 (3E)	第 6 位
100m自由形	大和田直希 (2E)	第 4 位
〃	山口 聖二 (3I)	第 6 位
〃	今野 裕斗 (3E)	第 7 位
200m自由形	池田虎太郎 (3I)	第 1 位
〃	山口 聖二 (3I)	第 4 位
400m自由形	仲村 誉 (5K)	第 2 位
〃	坂本 亮太 (4M)	第 4 位
〃	矢澤 啓佑 (2K)	第 5 位
800m自由形	池田虎太郎 (3I)	第 1 位
〃	仲村 誉 (5K)	第 4 位
〃	坂本 亮太 (4M)	第 5 位
100m背泳ぎ	小林 基晃 (3C)	第 2 位
〃	菊地 啓太 (5C)	第 7 位
200m背泳ぎ	小林 基晃 (3C)	第 2 位
100m平泳ぎ	佐々木龍之介 (3M)	第 1 位
〃	脇田 優希 (2M)	第 4 位
200m平泳ぎ	佐々木龍之介 (3M)	第 1 位
〃	脇田 優希 (2M)	第 3 位

100mバタフライ	吉田 拓実 (3K)	第 1 位
〃	福原 至音 (3C)	第 7 位
200mバタフライ	吉田 拓実 (3K)	第 1 位
200m個人メドレー	大和田直希 (2E)	第 2 位
〃	福原 至音 (3C)	第 4 位
〃	菊地 啓太 (5C)	第 6 位
4×100mリレー	(吉田・池田・佐々木・山口)	第 1 位
4×200mリレー	(吉田・池田・佐々木・仲村)	第 1 位
4×100mメドレーリレー	(小林・佐々木・吉田・池田)	第 1 位
■水泳 (女子)		
学校対抗		第 1 位
100m自由形	鈴木 碧 (5I)	第 3 位
〃	柳内 紅葉 (2B)	第 4 位
〃	櫻井 友香 (4I)	第 5 位
200m自由形	鈴木 碧 (5I)	第 1 位
〃	柳内 紅葉 (2B)	第 2 位
〃	櫻井 友香 (4I)	第 3 位
50m背泳ぎ	河治 早紀 (2B)	第 3 位
100m背泳ぎ	河治 早紀 (2B)	第 1 位
100m平泳ぎ	渡邊 涼子 (3I)	第 3 位
〃	猪俣 里奈 (1T)	第 5 位
200m平泳ぎ	渡邊 涼子 (3I)	第 2 位
〃	猪俣 里奈 (1T)	第 4 位
4×50mリレー	(櫻井・柳内・河治・鈴木)	第 2 位
4×100mリレー	(櫻井・柳内・河治・鈴木)	第 1 位
4×50mメドレーリレー	(河治・渡邊・鈴木・櫻井)	第 2 位

第52回全国高専体育大会結果

■陸上競技		
長野高専 (松本平運動公園陸上競技場)		
(男子)		
学校対抗		第 4 位
400m	鈴木 陵太 (5E)	第 1 位
4×100mR	(今野・鈴木・横田・末永)	第 7 位
4×400mR	(今野・吉田・末永・鈴木)	第 3 位
走幅跳	末永 淳 (2M)	第 3 位
〃	今野 和樹 (5K)	第15位
三段跳	今野 和樹 (5K)	第 2 位
〃	末永 淳 (2M)	第18位
やり投	五十嵐拓海 (3E)	第 4 位
400mH	鈴木 陵太 (5E)	第 1 位
5000m	熊谷 裕平 (4I)	第16位
3000mSC	根本 優作 (4K)	第16位
砲丸投	櫛田 秀人 (5E)	第 6 位
〃	佐藤 将富 (4C)	第18位
円盤投	櫛田 秀人 (5E)	第 8 位
〃	山田 優多 (2E)	第11位
(女子)		
学校対抗		第16位
800m	武藤 咲希 (4I)	第 1 位
■卓球		
茨城高専 (ひたちなか市総合運動公園総合体育館)		
(男子)		
シングルス	谷本 純一 (3E)	第 3 位
ダブルス	加藤 翔 (4E)	
	谷本 純一 (3E)	第 3 位
(女子)		
地区対抗戦		第 1 位
シングルス	猪狩 果菜 (5I)	第 2 位
〃	高橋 百花 (4I)	第 3 位
ダブルス	佐藤 泉 (5I)	
	岡部あゆみ (3I)	第 1 位
〃	猪狩 果菜 (5I)	
	高橋 百花 (4I)	第 2 位
■ソフトテニス		
小山高専 (栃木市総合運動公園テニスコート)		
(女子)		
ダブルス	大和田夏美 (1T)	
	猪狩 澄玲 (1T)	第 3 位

■バドミントン		
長岡高専 (長岡市市民体育館)		
(男子)		
シングルス	川音 裕也 (3M)	第 2 位
ダブルス	川音 裕也 (3M)	
	門馬 捷太 (3M)	1 回戦敗退
(女子)		
シングルス	川音みのり (2B)	1 回戦敗退
〃	青田 理咲 (4C)	1 回戦敗退
ダブルス	藤枝 まみ (5K)	
	谷口 夢実 (5K)	1 回戦敗退
■テニス		
木更津高専 (エストーレホテル アンド テニスクラブ)		
(男子)		
団体戦		1 回戦敗退
シングルス	橋本 拓実 (4M)	1 回戦敗退
ダブルス	鈴木 喬也 (5C)	
	松崎 冬弥 (5M)	1 回戦敗退
(女子)		
ダブルス	蛭田 愛未 (5C)	
	高橋 朋世 (4K)	1 回戦敗退
■剣道部		
サレジオ高専 (東京理科大学葛飾キャンパス体育館)		
(女子)		
個人戦	宗像 海帆 (1C)	2 回戦敗退
■水泳		
小山高専 (栃木県立温水プール館)		
学校対抗		第 3 位
(男子)		
200m自由形	池田虎太郎 (3I)	第 4 位
400m自由形	仲村 誉 (5K)	第19位
800m自由形	池田虎太郎 (3I)	第10位
100m平泳ぎ	佐々木龍之介 (3M)	第 3 位
200m平泳ぎ	佐々木龍之介 (3M)	第 2 位
100mバタフライ	吉田 拓実 (3K)	第 2 位
200mバタフライ	吉田 拓実 (3K)	第 1 位
4×100mリレー	(池田・佐々木・吉田・仲村)	第 4 位
4×100mメドレーリレー	(小林・佐々木・吉田・池田)	第 3 位
(女子)		
4×50mリレー	(櫻井・柳内・河治・鈴木)	第 6 位

第63回福島県高等学校体育大会結果

■陸上競技 (男子)		
走高跳	秋野 涼 (3E)	第 5 位
		(東北大会出場)
走幅跳	末永 淳 (2M)	第 1 位
		(東北大会出場)
三段跳	末永 淳 (2M)	第 5 位
		(東北大会出場)
やり投	五十嵐拓海 (3E)	第 1 位
		(東北大会出場)
■陸上競技 (女子)		
棒高跳	上坪千華子 (3I)	第 1 位
		(東北大会出場)
棒高跳	八島すみれ (3I)	第 5 位
■ソフトテニス (男子)		
団体戦		2 回戦敗退
ダブルス	鈴木 涼真 (3E)	
	猪狩 智也 (3K)	1 回戦敗退
〃	湯澤 亮介 (3E)	
	新妻 佳祐 (2E)	1 回戦敗退

■ソフトテニス (女子)		
団体戦		3 回戦敗退
ダブルス	大和田夏美 (1T)	
	猪狩 澄玲 (1T)	3 回戦敗退
〃	大坊知里子 (3I)	
	青木麻里乃 (3K)	1 回戦敗退
■テニス (男子)		
学校対抗戦		3 回戦敗退
シングルス	若松 大雅 (3E)	2 回戦敗退
ダブルス	長谷川俊輔 (3C)	
	齋藤 竜輝 (3C)	1 回戦敗退
■テニス (女子)		
学校対抗戦		1 回戦敗退
■卓球 (男子)		
学校対抗戦		2 回戦敗退
シングルス	谷本 純一 (3E)	ベスト 8
		(東北・全国大会出場)

■卓球（女子）

団体戦		2 回戦敗退
シングルス	岡部あゆみ (31)	ベスト 8 (東北・全国大会出場)
ダブルス	鈴木 梨恵 (3K) 鈴木 梨恵 (3K) 岡部あゆみ (31)	ベスト 32 第 6 位 (東北大会出場)

■剣道（男子）

団体戦		1 回戦敗退
個人形	石井 啄翔 (1C)	2 回戦敗退
個人組手	石井 啄翔 (1C)	2 回戦敗退

■水泳（男子）

男子総合		第10位
50m自由形	大和田直希 (2E)	予選敗退
100m自由形	今野 裕斗 (3E)	予選敗退
200m自由形	山口 聖二 (31)	予選敗退
400m自由形	大和田直希 (2E)	予選敗退
800m自由形	今野 裕斗 (3E)	予選敗退
1600m自由形	池田虎太郎 (31)	第 7 位 (東北大会出場)
50m背泳ぎ	矢澤 啓佑 (2K)	第 7 位 (東北大会出場)
100m背泳ぎ	小林 基晃 (3C)	予選敗退
200m背泳ぎ	山口 聖二 (31)	第 9 位
400m背泳ぎ	箭内 武敏 (2M)	予選敗退
800m背泳ぎ	小林 基晃 (3C)	予選敗退
1600m背泳ぎ	脇田 優希 (2M)	予選敗退
50m平泳ぎ	青木 亨論 (2C)	予選敗退
100m平泳ぎ	佐々木龍之介 (3M)	第 5 位 (東北大会出場)
200m平泳ぎ	脇田 優希 (2M)	予選敗退
400m平泳ぎ	佐々木龍之介 (3M)	第 4 位 (東北大会出場)
800m平泳ぎ		第 6 位 (東北大会出場)
1600m平泳ぎ		第 6 位 (東北大会出場)
200mバタフライ	福原 至音 (3C)	
400mバタフライ	吉田 拓実 (3K)	

200mバタフライ	吉田 拓実 (3K)	第 3 位 (東北大会出場)
200m個人メドレー	福原 至音 (3C)	予選敗退
4×100mリレー	池田、山口、佐々木、吉田	第 8 位 (東北大会出場)
4×200mリレー	池田、脇田、佐々木、吉田	予選敗退
4×100mメドレーリレー	小林、佐々木、吉田、池田	第 5 位 (東北大会出場)

■水泳（女子）

50m自由形	河治 早紀 (2BC)	予選敗退
100m自由形	柳内 紅葉 (2BC)	予選敗退
200m自由形	柳内 紅葉 (2BC)	予選敗退
400m自由形	河治 早紀 (2BC)	予選敗退
800m自由形	猪俣 里奈 (1T)	予選敗退
1600m自由形	渡邊 涼子 (31)	予選敗退
50m背泳ぎ	猪俣 里奈 (1T)	予選敗退
100m背泳ぎ	渡邊 涼子 (31)	予選敗退
200m背泳ぎ	猪俣 里奈 (1T)	予選敗退
400m背泳ぎ	渡邊 涼子 (31)	予選敗退
800m背泳ぎ	柳内、渡邊、猪俣、河治	予選敗退

■バドミントン（男子）

団体戦		ベスト 8
シングルス	川音 裕也 (3M)	ベスト 16
ダブルス	門馬 捷太 (3M)	3 回戦敗退
ダブルス	吉田 索 (3M)	1 回戦敗退
ダブルス	薄葉 健大 (1M)	1 回戦敗退
ダブルス	川音 裕也 (3M)	
ダブルス	門馬 捷太 (3M)	ベスト 16

■バドミントン（女子）

団体戦		1 回戦敗退
シングルス	草野 優夏 (1B)	3 回戦敗退
ダブルス	川音みのり (2B)	1 回戦敗退
ダブルス	川音みのり (2B)	
ダブルス	草野 優夏 (1B)	3 回戦敗退
ダブルス	赤塚 優花 (1B)	
ダブルス	根本 真央 (1C)	2 回戦敗退

■弓道（男子）

個人	高橋 晃樹 (3K)	予選敗退
個人	藤澤 優 (3M)	予選敗退

■弓道（女子）

個人	松本 佳苗 (31)	予選敗退
個人	佐川菜々香 (2B)	第 9 位

東北高等学校体育大会結果

◎第72回東北高等学校陸上競技選手権大会

男子走高跳	秋野 淳 (3E)	予選敗退
男子走幅跳	末永 淳 (2M)	第 8 位
男子三段跳	末永 淳 (2M)	欠場
男子やり投	五十嵐拓海 (3E)	予選敗退
女子棒高跳	上坪千華子 (31)	第 1 位 (全国大会出場)

(福島県タイ記録・福島県高校タイ記録)

◎第71回東北高等学校卓球選手権大会

男子シングルス	谷本 純一 (3E)	1 回戦敗退
女子ダブルス	岡部あゆみ (31) 鈴木 梨恵 (3K)	1 回戦敗退

女子シングルス	岡部あゆみ (31)	2 回戦敗退
男子100m自由形	池田虎太郎 (31)	予選敗退
男子200m自由形	池田虎太郎 (31)	予選敗退
男子100m平泳ぎ	佐々木龍之介 (3M)	予選敗退
男子200m平泳ぎ	佐々木龍之介 (3M)	予選敗退
男子100mバタフライ	吉田 拓実 (3K)	第 6 位
男子200mバタフライ	吉田 拓実 (3K)	第 8 位
男子4×100mリレー	吉田、池田、脇田、山口	予選敗退
男子4×100mメドレーリレー	小林、佐々木、福原、山口	予選敗退

各協会・連盟主催大会等の結果

◎平成29年度全国高等学校総合体育大会 陸上競技

女子 棒高跳	上坪千華子 (31)	決勝進出
--------	------------	------

◎第44回東北総合体育大会陸上競技大会

男子400m	鈴木 陵太 (5E)	第 5 位
男子400mH	鈴木 陵太 (5E)	第 6 位
女子棒高跳	上坪千華子 (31)	第 3 位

◎第70回東北学生陸上競技対校選手権大会

男子400m	鈴木 陵太 (5E)	第 5 位
男子400m H	鈴木 陵太 (5E)	第 4 位
やり投	渡邊 隆也 (1CB)	第 3 位

◎ハイスchoolジャパンカップソフトテニス2017福島県代表選考会

男子ダブルス	伊藤 隆也 (3E)	
男子ダブルス	猪狩 智也 (3K)	1 回戦敗退
男子ダブルス	湯澤 亮介 (3E)	
男子ダブルス	新妻 佳祐 (2E)	1 回戦敗退
女子ダブルス	大坊知里子 (31)	
女子ダブルス	大和田夏美 (1T)	2 回戦敗退
女子ダブルス	福田 七唯 (31)	
女子ダブルス	青木麻里乃 (3K)	1 回戦敗退

◎第15回福島県高等学校春季ソフトテニス大会

男子団体戦		予選リーグ敗退
-------	--	---------

◎第13回福島県シングルスソフトテニス選手権大会

男子シングルス	鈴木 湊太 (5K) 決勝トーナメント 1 回戦敗退	
男子シングルス	高橋 昂太 (5C)	予選リーグ敗退
女子シングルス	古川 千尋 (4M)	予選リーグ敗退
女子シングルス	大和田夏美 (1T)	予選リーグ敗退

◎第34回福島県春季ジュニアテニス選手権大会 兼第39回東北ジュニアテニス選手権大会福島県予選会

男子ダブルス	長谷川俊輔 (3C)	
男子ダブルス	齋藤 竜輝 (3C)	2 回戦敗退
女子ダブルス	小堺 愛紗 (3C)	
女子ダブルス	鈴木 琴音 (3C)	1 回戦敗退

女子ダブルス	井上 舞 (31)	
女子ダブルス	阿部 優香 (31)	1 回戦敗退

◎第49回北福島オープン卓球選手権大会

男子シングルス	谷本 純一 (3E)	5 回戦敗退
男子シングルス	加藤 翔 (3E)	3 回戦敗退
男子シングルス	吉田 孝信 (4E)	3 回戦敗退
男子シングルス	山本 崇史 (3K)	3 回戦敗退
男子シングルス	鶴沼 大仁 (4E)	2 回戦敗退
男子シングルス	佐々木大翔 (4C)	2 回戦敗退
男子シングルス	小野 智生 (3K)	1 回戦敗退
男子シングルス	大沼 翼 (2M)	1 回戦敗退
男子ダブルス	加藤 翔 (3E)	
男子ダブルス	鶴沼 大仁 (4E)	4 回戦敗退
男子ダブルス	佐々木大翔 (4C)	
男子ダブルス	吉田 孝信 (4E)	3 回戦敗退
男子ダブルス	谷本 純一 (2E)	
男子ダブルス	山本 崇史 (2K)	2 回戦敗退
男子ダブルス	小野 智生 (3K)	
男子ダブルス	大沼 翼 (2M)	2 回戦敗退
女子シングルス	岡部あゆみ (31)	ベスト 8
女子シングルス	佐藤 泉 (51)	5 回戦敗退
女子シングルス	高橋 百花 (41)	5 回戦敗退
女子シングルス	鈴木 梨恵 (3K)	4 回戦敗退
女子シングルス	猪狩 菜菜 (51)	3 回戦敗退
女子シングルス	鈴木 菜林 (2B)	2 回戦敗退
女子ダブルス	猪狩 菜菜 (51)	
女子ダブルス	高橋 百花 (41)	第 3 位
女子ダブルス	佐藤 泉 (51)	
女子ダブルス	鈴木 菜林 (2B)	4 回戦敗退
女子ダブルス	岡部あゆみ (31)	
女子ダブルス	鈴木 梨恵 (3K)	4 回戦敗退

◎平成29年度全国高等学校総合体育大会卓球競技大会
兼 第86回全国高等学校卓球選手権大会

男子シングルス 谷本 純一 (3E) 1 回戦敗退
女子シングルス 岡部あゆみ (3I) 1 回戦敗退

◎第 70 回福島県総合体育大会

■陸上競技 (男子)

400m 鈴木 陵太 (5E) 第 3 位
(東北総体出場)
400mH 鈴木 陵太 (5E) 第 3 位
(東北総体出場)
走幅跳 末永 淳 (2M) 第 6 位
" 今野 和樹 (5K) 第 8 位
やり投 渡邊 隆也 (1CB) 第 7 位
" 五十嵐拓海 (3E) 第 8 位

■陸上競技 (女子)

棒高跳 上坪千華子 (3I) 第 1 位
(東北総体出場)
B 走幅跳 畠山 茉紘 (1B) 第 7 位

■ソフトテニス (男子) 成年の部

ダブルス 千葉裕太郎 (5C) 予選敗退
鈴木 溪太 (5K)
" 高橋 昂太 (5C)
飯塚 陸 (4M) 予選敗退
" 吉田 翔太 (4K)
乙山 翔太 (4K) 予選敗退

■ソフトテニス (男子) 少年の部

ダブルス 伊藤 隆也 (3E) 2 回戦敗退
猪狩 智也 (3K)
" 鈴木 涼真 (3E) 1 回戦敗退
湯澤 亮介 (3E)

■ソフトテニス (女子)

ダブルス 大和田夏美 (1T) 3 回戦敗退
猪狩 澄玲 (1T)
" 他校生徒
青木麻里乃 (3K) 2 回戦敗退
" 大坊知里子 (3I)
福田 七唯 (3I) 1 回戦敗退

■テニス (男子)

Ⅱ部シングルス 石橋 凜 (1C) 1 回戦敗退
Ⅱ部ダブルス 高橋 知輝 (1T) 3 回戦敗退
石田 壮太 (1C)

Ⅱ部ダブルス 中嶋 晃祐 (1M) 3 回戦敗退
加藤 悠利 (1M)

■テニス (女子)

Ⅰ部シングルス 小林 夢奈 (2C) 1 回戦敗退

■卓球 (男子)

団体戦 ベスト 8
シングルス 谷本 純一 (3E) 第 4 位
" 赤津 陽斗 (1E) ベスト 32
予選リーグ敗退

■卓球 (女子)

シングルス 岡部あゆみ (3I) ベスト 16
" 鈴木 茉林 (3B) ベスト 32

■水泳 (男子)

50m 背泳ぎ 小林 基晃 (3C) 第 6 位
100m 背泳ぎ 小林 基晃 (3C) 第 8 位
100m バタフライ 吉田 拓実 (3K) 第 5 位
100m 平泳ぎ 佐々木龍之介 (3M) 第 6 位
200m バタフライ 吉田 拓実 (3K) 第 4 位
200m 平泳ぎ 佐々木龍之介 (3M) 第 5 位
400m メドレーリレー (小林、佐々木、吉田、池田) 第 3 位

■バドミントン (男子)

シングルス 川音 裕也 (3M) ベスト 16
" 吉田 索 (3M) 3 回戦敗退
ダブルス 川音 裕也 (3M)
吉田 索 (3M) 2 回戦敗退

■バドミントン (女子)

シングルス 川音みのり (2B) 2 回戦敗退
" 草野 優夏 (1B) 2 回戦敗退
" 根本 真央 (1C) 2 回戦敗退
ダブルス 川音みのり (2B)
草野 優夏 (1B) 2 回戦敗退
" 赤塚 優花 (1B)
" 根本 真央 (1C) 1 回戦敗退
" 菅野 日和 (3C) 1 回戦敗退
江尻 彩葉 (3I)

◎第 99 回全国高等学校野球選手権福島大会

1 回戦敗退

◎第 96 回全国高等学校サッカー選手権福島大会

1 回戦敗退

各種大会等の結果

■写真部

【コンテスト】
第23回全国高等学校写真選手権大会 (写真甲子園2017) 応募
石井 楓生 (3E)
2017年度フォトサロンVol.1 応募
石井 楓生 (3E)

【写真展】
フラガールズ甲子園写真展2017 in LATOV 開催
いわき街なかコンサート写真展2017 in アリオス 開催
【写真集等】
フリーペーパー高校生通信Vol12-17「Gallery」 連載
【ボランティア&活動他】
H29年東北高専体育大会いわき地区撮影 実施
第41回全国高等学校総合文化祭 みやぎ総文2017見学 実施
第7回フラガール甲子園記録撮影 実施

■吹奏楽部

吹奏楽コンクール県大会大学の部 銀賞

■将棋部

第52回全国高等学校将棋選手権大会福島県大会
団体戦 瀧田 大地 (3M) 第 4 位
三輪 拓美 (3C)
小林 基晃 (3C)
個人戦 鈴木 涼佑 (2C) 予選リーグ敗退
第30回全国高校将棋竜王戦福島県大会
個人戦 鈴木 練 (1M) 2 回戦敗退
" 小澤 梨奈 (2B) 2 回戦敗退
" 瀧田 大地 (3M) 1 回戦敗退
" 鈴木 涼佑 (2C) 1 回戦敗退
" 秋山 祐輝 (1M) 1 回戦敗退
" 今野竜之介 (1M) 1 回戦敗退
" 遠藤 雅明 (1C) 1 回戦敗退
" 水野 典治 (1T) 1 回戦敗退
第24回全国高等専門学校将棋大会
団体戦 会田 優斗 (4K) 予選敗退
松山 拓矢 (4C)
菊池 俊祐 (4C)
個人戦 男子 瀧田 大地 (3M) 1 回戦敗退
" 野村 賢史 (4C) 予選敗退
" 高木 迅哲 (4K) 予選敗退
" 長谷川貴哉 (4K) 予選敗退
個人戦 女子 小澤 梨奈 (2B) 予選敗退
" 西山 来夢 (1C) 予選敗退

■茶華道部

いわき学校茶道連盟第42回合同発表会参加

■演劇部

いわき地区高校演劇発表会参加
第39回福島県高校演劇連盟夏季研修会参加

■エネルギー研究会

ワールド・グリーンチャレンジ2017
ソーラーカー部門 エンジョイクラス 3 位
総合 10位
古河林業賞受賞

■分子生物学愛好会

第29回知能ロボットコンテスト2017
※ チーム 堀越くまさん K.K.
鈴木 琴乃 (3C)
門井 真理乃 (3C)
ロボット名 きゃりーべんべんW
チャレンジャーズコース 準優勝
※ チーム 堀越くまさん C
鈴木 萌花 (5C)
笹川 桃佳 (5C)
一條祐里奈 (3C)
ロボット名 CC602
チャレンジャーズコース
1 次予選 6 位通過 2 次予選敗退
※ チーム 堀越くまさん M
鈴木 萌花 (5C)
笹川 桃佳 (5C)
一條祐里奈 (3C)
ロボット名 MC002
マスターズコース 優勝
日本ロボット学会特別賞

■ストリートダンスサークル

DANCE@LIVE rize 東北大会Vol.1 準優勝
DANCE@LIVE rize 東北大会Vol.2 ベスト 8

■ディベートサークル

東北中学・高校ディベート選手権大会 第 4 位

将棋部紹介

将棋部指導教員 西 浦 孝 治

みなさんは将棋を指したことがあるでしょうか。史上最年少プロ棋士が誕生したこともあり、現在、将棋はとても注目されています。

福島高専将棋部は部員15名で、そのうち2名は女子学生です。週3日、活動しています。部員同士が対局をして、対局後はその対局について振り返ります。これを感想戦といいます。おもしろい言い方だと思うかもしれません。感想戦では、この手は良かった、ここではこの手を指した方が良かった、などと議論します。これによって実力（棋力）が上がっていきます。また、コンピュータソフトを使って、研究しています。プロ棋士を負かすほど将棋のコンピュータソフトは発達していて、棋力の向上に役立っています。さらに各自が将棋の本を読んで勉強しています。このように聞くと将棋は難しそうに思うかもしれませんが、しかし、初心者も多く入部し、先輩が丁寧に教えてくれます。3か月後には、大会に参加することができるまでになります。将棋は奥が深いですが、老若男女問わず、気軽に楽しめるものです。

福島高専将棋部は次の4つの大会に参加しています。

- ・高校の大会：将棋選手権大会（5月）、竜王戦（7月）、新人戦（11月）
- ・高専の大会：全国高等専門学校将棋大会（8月）

昨年度、将棋選手権大会福島県大会の団体戦で優勝しました。そして、8月の全国大会に出場することができました。将棋の甲子園と呼ばれている大会で、部員全員が喜びました。惜しくも予選敗退となりましたが、将棋に対する熱意が一層高まりました。また、全国高等専門学校将棋大会では、全国の高専の将棋部員が集まり、個人戦、団体戦、女子個人戦に分かれて戦います。この大会では、全国の高専生と交流することもでき、部員は最も楽しみにしています。

磐陽祭では、将棋部は一般の方と部員が対局する場を設けています。ぜひ参加していただき、一緒に将棋を楽しみませんか。多くの方に将棋に興味を持っていただくとうれしく思います。

これからも各大会での優勝を目標に、一致団結して日々の活動を行っていこうと思います。また、棋力向上だけでなく、将棋を通して、礼儀作法を身に着け、人間形成を養っていくことができる部でありたいと考えています。



活動の様子



全国高専大会出場メンバー



平成28年度将棋選手権大会
福島県大会優勝

福島高専水泳部との24年

水泳部指導教員 松 本 匡 以

気がつけば、水泳部の顧問（指導教員）を続けて24年が経とうとしています。冷たい水や風雨にも負けず黙々と練習に励み、私には到底できない結果を残してくれている選手達と、選手を日々指導・支援してくれているコーチとマネージャー達に感謝の気持ちを込めて、この24年を振り返ってみたい。

平成6年2月頃のことだったと思います。当時隣の研究室だった菅原卓夫先生が来られて「来年度、内地研究員で不在の間だけ水泳部の面倒を見てほしい」と依頼がありました。「印鑑が必要な時に押印する程度の仕事」「実務はコーチとマネージャーがするから（練習時にプールへ行き）座っていれば良い」とも仰っていたような…。件の平成6年度になると、（当然！）上記のようなことだけでは済まず、加えて東北地区高専体育大会（31回）が待っていました。競泳のルールや地元水泳連盟のしきたり等もほとんど分らずの大会運営となりました。

あたふたと平成6年度を乗り切ると、菅原先生が水泳部に戻って来られましたが、当時担任していたクラスの学生が水泳部に複数名所属していて「一年間面倒見た学生は卒業時まで見届けるべき」と言われ、副顧問として残ることになりました。今度こそ座っているだけの仕事を期待したのですが、（当然！）そういう訳にはいかず、あちこちと引率等にも駆り出されました。

続く平成8年度は4月から菅原先生が入院、再度第一顧問となり、無事にシーズンを終えられそうだった10月突然の逝去。菅原先生のあまりにも早いゴールに戸惑いましたが、何とか今日まで指導を続けられ、全国高専体育大会総合優勝や東北地区高専体育大会連覇等の結果を残せていることは、きっかけを作って下さった菅原先生と、平成2年度から継続して指導して頂いている金澤弘孝コーチのおかげと感謝しています。

この24年間で思い出に残る大会は2回の全国優勝時を含めてたくさんありますが、特に本校主管で開催した平成13年の東北地区大会（38回）と翌14年の全国大会（8回）があげられます。平成13年度から東北地区・全国と連続して担当することになり、当初は不安でいっぱいでした。しかし、前回（31回）の雪辱を果たしたい気持ちと、当時の専体協水泳競技専門部委員長の鶴岡高専の武田弘昭先生の「東北で最初の水泳の全国高専大会」という言葉に背中を押され、両大会とも事前の計画・準備と根回し（？）を念入りに行い、成功裏に終了できたと思っています。全国大会では、競技日前日夕方にプールのメインの水道管の漏水というトラブルがありましたが、故・新妻定男いわき水泳連盟元会長を始めとする施設を管理する方々の文字通り不眠不休の努力により、大事に至らなかったことを改めて感謝したいと思います。この時の成績は、秋田高専が総合優勝、宮城高専（現 仙台高専 名取）が準優勝。また、この大会から始まった地区対抗女子200mリレーで東北チームが優勝（本校の女子選手も一人メンバー入りしていました）。東北で最初の全国大会での東北勢の活躍に、ご満悦な様子の武田先生の姿が今も忘れられません。ちなみに、本校チームは地の利を活かして（？）総合6位でした。

そろそろ次年度の活動計画を考える時期になりますが、今後も東北地区高専体育大会を始めとする全ての大会で選手達がベストの記録を出せるよう、金澤コーチ・青木先生・原田先生とともに選手の強化と指導に励みたいと思っています。



平成29年度エネルギー教育モデル校に選定

公益財団法人日本科学技術振興財団が実施する「エネルギー教育モデル校事業」において、本校が平成29年度エネルギー教育モデル校に選定されました。

この事業は、学生がエネルギーについて幅広く学び、将来のエネルギーに対する適切な判断と行動をするための基礎を構築することを目的としています。平成29年度は全国から31校が選定され、高専では唯一の選定校となりました。

本校では、太陽光発電や風力発電など複数の発電システムと蓄電池を接続して制御し、様々なシミュレーションを行える「スマートグリッド実規模実験装置」と、学内の電力使用量が一目でわかる「電力見える化システム」を活用し、本科1～5年生を対象として、再生可能エネルギーや省エネについての教育プログラムを実施します。

エネルギー教育モデル校としての活動は平成31年度まで継続し、学生がエネルギーについて理解を深められるよう取り組んでいきます。

日本IAEA合同原子力エネルギーマネジメントスクールを開催しました

国際原子力機関(IAEA)と原子力人材育成ネットワークの共催により7月18日～8月3日の約3週間にわたり、東京大学と福島高専を主な会場として開催しました。このスクールは、原子力発電新規導入国の人材育成ならびに国際感覚に秀でた日本の若手リーダーの育成を目的としています。アジアや欧州、中南米16カ国からの参加者20名と国内から15名が参加しました。

7月24日～28日に本校を会場とし、IAEAにおける安全基準に関する講義や放射性廃棄物処理処分に関する講義などを行い、福島第一、第二原子力発電所の視察などを行いました。また、いわき産農作物安全確認モニタリング検査の見学、いわき市の風評被害対策の説明、ワンダーファーム見学を行い、いかに安全・安心が確保されているのかを確認してもらうのと同時に元気ないわきの姿を見てもらいました。

最終日には富山高専と香川高専をTV会議システムで接続し、高専生からの研究や地域紹介のプレゼンと、タイ、ポーランド、ブラジルからの参加者からのお国自慢を話してもらうなどの交流をしました。



The GREEN Program 開催

8月3日から11日にかけて、アメリカ等の大学生20名がThe GREEN Program 主催の福島スタディーツアーに訪れました。テーマは原子力安全と廃炉、原子力から再生可能エネルギーへの転換で、福島高専での講義を聴講し、JAEAや東京電力福島第一原子力発電所、福島再生可能エネルギー研究所などを見学しました。また、小名浜の花火大会やいわきの夏祭りにも参加し、磐梯方面への一日旅行も含め、福島の実状を知ってもらう良い機会となりました。参加した学生からは、「来る前に考えていた福島と全く違っていった。人々が元気に生活していることを知れてよかった。帰国して、周りの人に伝えたい」という声が聞かれました。このプログラムは、今後も定期的に継続していく予定です。



福島工業高等専門学校地域復興支援室広野オフィス開所式を開催

本校では、10月10日、広野町二ツ沼総合公園内パークギャラリーにて、福島工業高等専門学校地域復興支援室広野オフィスの開所式を開催しました。

本校と広野町は平成22年3月25日に「福島工業高等専門学校と広野町との地域連携協力に関する協定書」を締結し、「福島イノベーション・コースト構想」推進への貢献及び地域との連携を発展させることを目的に、10月1日付で同オフィスを開設しました。

開所式では、中村校長が、「このオフィスを活用して、福島高専の教育研究活動をステップアップさせたい。」と挨拶し、遠藤広野町長及び北郷広野町議会副議長から、同校の取組に期待する歓迎の挨拶がありました。

今後同校ではこのオフィスを、地域の環境回復及び廃炉研究・人材育成事業、広野町の特産であるミカンを活用した研究活動の拠点とするほか、環境をテーマに世界各地で活躍する米国の公益団体The GREEN Programによる研修活動等で活用することとしています。



地域貢献事業

「平成29年度第8回中学生英語スピーチコンテスト」開催される

去る7月29日（土）に学校開放事業第8回中学生英語スピーチコンテストが本校の会議室を会場に開催されました。今年は県内の11中学校から14名が参加して実施されました。題は自由で、5分以内のスピーチで競い合いました。スピーチの内容がかなりレベルが高く、原稿作成の段階で相当の努力がなされたものと推測されました。またそれを多くの人の前で説得力を持って発表できるようにするために、かなり練習を積んできているようでした。発音は、例年より全般的に正確でした。出来栄は、流暢さ、パフォーマンスなどに個人的に多少差はありましたが、どの参加者も一つの事をやり遂げたという達成感を強く感じているようでした。閉会式の後、一緒に写真を撮ったりして、交流を深めていました。



出前授業を実施

化学・バイオ工学科教授 青 柳 克 弘

本校では、地域貢献事業の一環として、各学科単位で特徴ある出前授業を行っています。今回は、化学・バイオ工学科が担当したものをご紹介します。

いわき市立鹿島小学校児童館からの依頼で、8月10日に鹿島小学校体育館を会場に実施しました。本校からは、教員1名と学生3名の計4名が参加し、32名の児童を2班に分け、時間をずらして行いました。テーマは、小学生、それも低学年が多いということもあり、比較的安全な「フェイクケーキ（スイーツデコ）をつくろう」と「人エイクラをつくろう」を選びました。ほとんどの児童が初めての体験で、目を輝かせて取り組んでいた姿が印象的でした。中には割り当てられた数以上にフェイクケーキや人エイクラをつくりたいと駄々をこね、児童館の方々に困らせる児童もいて、小学校低学年らしい一面を見ることもできました。参加した本校学生にとっても、教えることがいかに大変かということがわかり、貴重な体験だったと思います。



新任教職員紹介

一般教科 小倉 恵 実



京都市の大学より転任して参りました、小倉です。高等教育機関での英語教育に十年以上従事しており、高等専門学校での教歴もありますが、それでも慣れない事に多々突き当たり、多くの先生方や職員の皆様、そして学生の皆さんに助けをもらいながら教員としての日々を過ごしております。アメリカ合衆国の大学院で大衆文化史を学んでいた関連で、バスケットボールやアメフトなどのスポーツ観戦は生活の一部となっています。その他、音楽や写真、旅行など色々なものに興味を持っていますので、校内で見かけましたら気軽に話しかけて下さい。

一般教科 千葉 貴 裕



本年4月1日付で一般教科(物理科)に着任しました千葉貴裕です。3月まで私の地元宮城県に所在する東北大学金属材料研究所で5年間ほど磁性材料を研究しておりました。

私は身体を動かすことが好きで、学生時代はマラソンを、現在はロードバイクと登山を趣味としています。これらのスポーツを通してまだ知らない福島県の魅力を発見出来ればと思っています。また、学生の皆さんには物理の授業を通して科学的な思考力を培ってもらえるよう、実験を交えた有意義な授業をして参る所存です。これからどうぞよろしくお願いします。

機械システム工学科 野田 幸 矢



4月より着任しました野田幸矢(のださつや)といたします。

専門分野は災害ロボットおよび医療ロボットです。

特に災害ロボットの分野では階段を昇降できるロボットの研究をしており、本校のロボット教育に役立つと思います。

まだ、他での勤務経験のない28歳の未熟者ですが、優秀な高専生を育てられるよう尽力します。

どうぞよろしくお願いします。

新任教職員紹介

一般教科 モリス・ジェームズ・ハリー



私はモリス・ジェームズと申します。「モリス」は名字で、「ジェームズ」は名前です。イギリス出身です。2012年、日本に住み始めましたが、博士号を取るために2014年にイギリスへ帰国しました。2015年、研究のためにまた3ヶ月間くらい日本に来て、去年の6月また日本に引っ越ししました。

高専で英語を教えるけど、専門は日本史です。キリシタンの世紀、奈良時代の日本にきた波斯人、キリスト教とイスラムの関係、無教会、会津藩史、仙台藩史など研究しています。

暇な時にバイク、ハイキング、剣道、太鼓、祭りなど楽しんでいます。これからもよろしくお願いします。

事務部長 中 島 裕 二



本年4月1日に福島高専に赴任しました中島と申します。出身は会津です。浜通り・いわき方面はこれまで何度か訪れたことがありましたので、土地勘もあり、言葉もすんなり耳に入ってきます。

これまで各地の機関を経験し、福島高専が10ヶ所目の赴任先になります。とりわけ国立大学での勤務がもっとも長いわけですが、現在、国立大学は、基盤的な経費が毎年削減され、各大学は競争的な資金の獲得に躍起になっております。

高専を取り巻く状況も国立大学とまったく同じであり、今後とも厳しい中にあるわけですが、福島は地元でもあり、本校の発展のため粉骨砕身頑張っていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

総務課施設管理係長 鈴木 昭 彦



本年4月、赴任しました、総務課施設管理係 鈴木昭彦と申します。高専勤務は15年前に、宮城高専に約1年間お世話になりました。その後、福島大学から本校に赴任したのですが、高専の様子が激変しているので、ビックリしております。出身は会津で、いわき市は、東北（福島県）の中でも、気候が温暖で、なにより雪が降らないことが魅力だと思います。

微力ではありますが、福島工業高専のため、少しでも、足跡を残せるよう努力いたしますのでよろしくお願いいたします。

平成29年度 ミニ研究発表会

教務主事補 濱 崎 真 一

今年度もミニ研究発表会が、9月26日(火)、本校第一体育館を会場として開催されました。このミニ研究は、本校2年生を対象に平成18年に導入され、本年で12年目になります。「教員の設定したテーマに基づいて研究し、低学年のうちに自分で調べる・考える・文章にまとめる・報告する・人前で発表するという過程を経験し、個々の能力を高める」という理念を掲げて発足された企画で、12年間継続して実施してきました。研究テーマは教員が自身の専門分野に関連したものを提示し、学生はその中から自分の所属する学科にとらわれずに、自身の興味や問題意識に基づいてテーマを選択して半年間の研究に取り組みます。これにより大学では3、4年生(20歳以降)で触れられる研究を、本校では早期に2年生(16-17歳)の段階から体験でき、さらに他学科の専門分野を研究テーマとして選択することも可能なことから、多角的な視野を持つ柔軟な発想力が養われると考えています。この実践的教育の取組は本校の特色の一つであると自負しています。また、所属する学科以外の学生との共同作業、指導教員等との研究内容の話し合い、発表などを通し、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の向上も期待しています。



この試みは、最近ではアクティブラーニングの一例として他高専からも評価されており、本校を参考に、新たに同様の取り組みを実施しようとする高専もあると聞き及んでいます。

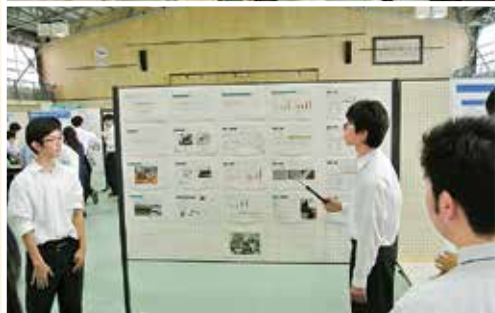
今年度は、43件のテーマで募集を行い、内42テーマについてミニ研究が実施され、学生は各研究グループに分かれて4月より真摯に取り組んでおり、研究そのものに没頭して時間を延長して放課後遅くまで残って挑むものや、さらには夏休み期間中に登校して取り組んだ者も多数うかがえていました。中には実際の卒業研究を行っている5年生と協力して、より本格的な研究に取り組んだ者もいたようです。

研究成果を披露するミニ研究発表会では、多くの来場者にお越しいただき、盛況のうちに終了しました。発表は前半と後半の2つに分け、発表時間を各80分間としていることから、1回の発表は15分程度を目安としていますが、各テーマにおいて本校教員だけの聴講でも平均6人(最多で15名)の聴講を受けており、学生は限られた時間内で自分の研究成果を積極的に議論していました。2年生は、各学科において本格的な専門の実験・実習教育に入りだした学年であります。今回の研究成果と発表会状況から、このミニ研究の目標である自ら「考え」、「調べ」、「まとめる」ということの重要性に真剣に向き合えたのではないかと思います。この経験を糧にして、今後の実験・演習、卒業研究など、専門教育に真摯に取り組むことを2年生には期待したいと思います。

本年度も、ミニ研究発表会には1年生にも参加していただきました。2年生の発表内容等を見て今後の参考とするだけでなく、研究に対する取組方について、自らの思いを固めたものもいたのではないのでしょうか。昨年度は先輩方の発表を傍観者然として眺めているだけでしたが、今年度は発表に対して質問をするなど、積極的に発表会に参加する様子もみられました。その1年生たちの真剣な眼差しとミニ研に対する姿勢をみて、次年度の成果も期待できるものと確信しております。

発表会には、平日の開催にもかかわらず多くの保護者の皆様にご来場いただき、聴講していただきました。また、多くの教職員の方々にも聴講と評価に参加していただきました。

何より、根気強く熱心にご指導いただきました先生方のお力添えにより、無事に発表会を終了することができました。ミニ研を支えていただきました皆様に感謝申し上げます。



平成29年度 校内体育大会

学生主事補 木次谷 聡

平成29年9月29日、爽やかな秋晴れの下、福島高専校内体育大会が盛大に行われました。

前日の大雨の影響も心配されましたが、サッカー部や野球部を中心とする有志の学生達が前日の夜から当日の朝早くまでグラウンド整備をしてくれたおかげで、予定通り晴天時の種目を行うことができました。

競技にはサッカー、バスケットボール、ソフトボール、ドッジボール、バレーボールなどの球技系だけでなく、大縄跳び、借り物競争、学年対抗リレーなどの技能系の種目も含まれ全部で8種目行いました。どの競技も経験者や女子に対するハンディキャップや特別ルールを適用することで、誰でも競技を楽しめるように工夫されていました。大会最後の大縄跳、借り物競争、学年対抗リレーでは、全学生がグラウンドに集結し大いに盛り上がりしました。

各種目の成績順位に応じて得点を加算したところ、クラス対抗では1年生から4年生の部ではすべて機械工学科（1年機械システム工学科）が優勝し、5年・専攻科の部では専攻科が優勝しました。最終的な学科対抗では機械工学科が総合優勝しました。

本大会の企画運営は、学生会の体育大会実行委員会（委員長：4年建設環境工学科 乙山翔太君）と各クラスの体育委員が中心となり、学業やクラブ活動の合間をみて早い時期から準備を進めてきました。

閉会式では「この体育大会を開催できたのも、学生の皆さんのおかげです。協力してくれた、各部活動、体育委員、そして準備にあたってくれたすべての学生に感謝しています。この調子で磐陽祭も盛り上げていきましょう」との委員長挨拶がありました。



平成29年度 行 事 予 定 (後期)

2017年

11月

3日(金) 磐陽祭準備 前夜祭
4日(土) 磐陽祭 本祭
20日(月)～12月1日(金)
後期中間試験期間

12月

2日(土) 専攻科社会人入試
2日(土)～3日(日)
第14回 全国高専デザインコンペ
ティション2017in清流の国ぎふ
3日(日) 全国高専ロボットコンテスト2017
(東京有明コロシアム)
13日(水) 学生会役員選挙
23日(土) 閉寮
冬季休業開始(1月8日(月)まで)
28日(木) 学校閉鎖期間(1月3日(水)まで)

2018年

1月

8日(月) 開寮
9日(火) 授業開始
10日(水) 専攻科特別研究Ⅰ発表会(1年)
11日(木) 学習到達度試験(工学系4学科3年
生対象)
基礎学力標準試験(数学)(工学系
4学科の1・2年生対象)
TOEIC Bridge試験(2年・1B対象)
他学生は臨時休業
13日(土) 推薦入試・寮スポーツ大会
24日(水) 学生総会

1月

24日(水) 専攻科特別研究Ⅱ発表会(2年)
27日(土) 卒業研究発表会(電気)
27日(土)～28日(日)
第11回全国高専英語プレゼンテー
ションコンテスト
(東京・国立オリンピック記念青少年総合センター)

2月

2日(金)～8日(木)
後期期末試験
16日(金) 後期授業最終日
月曜振替授業
18日(日) 学力入試
19日(月) 学生臨時休業
20日(火) 卒業研究発表会(機械)
20日(火)～23日(金)
補講期間
23日(金) 卒業研究発表会(建設)
27日(火) 卒業研究発表会(ビジ・学外)
28日(水) 卒業研究発表会(ビジ・学外)(物質)

3月

1日(木) 卒業研究発表会(物質)
2日(金) 終業式・寮送別会
6日(火) 地域フォーラム
専攻科公開発表会(2年)
16日(金) 卒業証書・修了証書授与式
(いわき芸術文化交流館アリオス)

入 学 試 験 の 日 程

【本 科】

● 推薦による選抜

・願書受付 1月4日(木)～9日(火)
・検査日 1月13日(土)
・内定通知発送日 1月18日(木)

● 学力検査による選抜

・願書受付 1月29日(月)～2月2日(金)
・検査日 2月18日(日)
・合格発表 2月23日(金)

● 帰国子女特別選抜

・願書受付 1月4日(木)～2月2日(金)
・検査日 2月18日(日)
・合格発表 2月23日(金)

【専攻科】

● 社会人特別選抜

・願書受付 11月20日(月)～24日(金)
・面 接 12月2日(土)
・合格発表 12月7日(木)

編 集 後 記

学校だより103号が発刊となります。お忙しい中、原稿を寄せていただいた皆さん、ありがとうございます。今年度も学生の皆さんが生き生きと学校生活を送り、多方面で活躍しています。これら学校生活のそれぞれの場面が学生の皆さんの人間形成の役に立っていると期待しています。学校だよりは本校ホームページにも掲載しています。過去10年の発行分が掲載されていますので、興味ある方はぜひご覧ください。